

ワークショップ プログラム

..... W1A タンパク質機能化の細胞内インフラストラクチャー

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 A会場(神戸国際展示場 2A会議室)
世話人/座長: 遠藤 斗志也(名大・院理), 吉田 賢右(東工大・資源研)

- 15:15 W1A-1 蛋白質の変性・凝集・その阻止・その回復・そしてプリオン
吉田 賢右(東京工業大学・資源化学研究所)
- 15:40 W1A-2 Co-translational association of chaperonin GroEL with newly synthesized proteins
BEIWEN YING¹, HIDEKI TAGUCHI^{1,3}, MAYUMI KONDO², TAKUYA UEDA¹ (¹Dept. Med. Gen. Sci., Grad. Sch. Frontier Sci., Univ. Tokyo, ²Dept. Chem. Biotech., Grad. Sch. Eng., Univ. Tokyo, ³PRESTO, JST)
- 15:55 W1A-3 大腸菌の蛋白質ジスルフィド結合導入メカニズム: パラドックスとソリューション
稲葉 謙次^{1,2}, 高橋 洋平¹, 伊藤 維昭^{1,3} (¹京大・ウイルス研, ²JST・さがけ21, ³JST・CREST)
- 16:20 W1A-4 大腸菌リボ蛋白質の選別と膜局在化
徳田 元(東大・分生研)
- 16:45 W1A-5 タンパク質のミトコンドリア膜透過に関与する新規トランスロケータ構成因子の同定と機能解析
山本 林, 石川 大悟, 直江 真里, 大和 幸昌, 遠藤 斗志也(名大・院理・生化)
- 17:10 W1A-6 葉緑体への蛋白質輸送: 蛋白質膜透過装置のアーキテクチャと膜透過中間体
菊地 真吾, 中井 正人(阪大・蛋白研)
- 17:25 W1A-7 シロイヌナズナ CRL は色素体へのタンパク質輸送に関わっているのか?
吉岡 泰¹, 浅野 智哉^{1,2}, 町田 泰則¹ (¹名大院・理・生命理, ²金沢大・学際科学実験センター)
- 17:40 W1A-8 オートファジーに必須なユビキチン様修飾因子 Atg12 の植物ホモログの結晶構造解析
鈴木 展生¹, 藤岡 優子¹, 吉本 光希², 花田 孝雄², 大隅 良典², 稲垣 冬彦¹ (¹北大院・薬・構造生物, ²基生研・細胞内エネルギー変換)
- 17:55 総合討論

..... W1B DNA メチル化とヒストンメチル化による遺伝子発現制御

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 B会場(神戸国際展示場 3A会議室)
世話人/座長: 石野 史敏(東京医歯大・難治疾患研), 佐々木 裕之(国立遺伝研・人類遺伝)

- 15:15 はじめに
石野 史敏(東京医歯大・難治疾患研)
- 15:20 W1B-1 生殖細胞系列におけるゲノムインプリンティング記憶の成立
石野 史敏^{1,2}, 李 知英^{1,2}, 松本 和也¹, 幸田 尚^{1,2}, 小倉 淳郎^{2,3}, 金児一石野 知子^{2,4} (¹東京医科歯科大学・難治研, ²CREST・科技振, ³理研・BRC, ⁴東海大・健康科学)
- 15:45 W1B-2 Antisense Regulation at the Xist Locus
Takashi Sado^{1,2,3}, Yuko Hoki^{1,3}, Hiroyuki Sasaki^{1,2} (¹Div. Hum. Genet., Natl. Inst. Genet., ²Dep. Genet., Soken-dai, ³PRESTO, JST)
- 16:10 W1B-3 MBD1 による DNA メチル化とヒストンメチル化の連携機構
市村 隆也, 坂本 快郎, 渡邊 すぎ子, 藤田 直之, 中尾 光善(熊本大・発生研・器官制御)
- 16:35 W1B-4 ヒストンメチル化酵素, G9a による遺伝子発現制御
立花 誠, 眞貝 洋一(京都大学, ウイルス研究所)

- 17:00 W1B-5 hDOT1L, a histone methyltransferase without a SET domain, is involved in leukemogenesis of a subset of MLL fusion proteins
Yi Zhang (Lineberger Comprehensive Cancer Cent., Univ. of North Carolina)
- 17:30 W1B-6 ゲノムインプリンティングの確立と維持における DNA メチル化とヒストン修飾の使い分け
佐々木 裕之, 金田 正弘 (国立遺伝研)
- 17:55 終わりに
佐々木 裕之 (国立遺伝研・人類遺伝)

..... W1C 細胞死の分子機構と生理機能

2004 年 12 月 8 日 (水) 15:15 ~ 18:00 C 会場 (神戸国際会議場 メインホール)
世話人 / 座 長: 後藤 由季子 (東大・分生研), 三浦 正幸 (東大・院薬系)

- 15:15 W1C-1 アポトーシスにおけるクロマチン凝縮: cell-free アポトーシス系を用いたリアルタイムイメージングと電子顕微鏡による解析
刀祢 重信¹, 杉本 憲治², 上平 賢三³, 須田 泰司³, 叶内 宏明¹, 湊川 洋介¹ (¹川崎医大・生化学, ²大阪府大院・農生命・応分生, ³川崎医大・電子顕微鏡センター)
- 15:30 W1C-2 昆虫は, どのようにして軽い翅をつくるのか~翅表皮細胞プログラム細胞死の制御機構~
木村 賢一 (北教大・岩見沢・生物)
- 15:50 W1C-3 タンパク質分解系による生と死の制御: ショウジョウバエからの展開
倉永 英里奈, 三浦 正幸 (東京大・薬・遺伝)
- 16:10 W1C-4 酸化ストレスによる ASK1 活性化の分子メカニズム
野口 拓也^{1,2,3}, 武田 弘資^{1,2}, 一條 秀憲^{1,2} (¹東京大 院薬 細胞情報, ²CREST, ³東医歯大 院医歯分子情報)
- 16:25 W1C-5 転写阻害時に誘導される p53 依存性アポトーシス機構
有馬 好美^{1,2}, 佐谷 秀行² (¹久留米大・医・免疫, ²熊本大・院医薬・腫瘍)
- 16:40 W1C-6 p53 を介した転写におけるクラスリン重鎖の関与
江成 政人, 田矢 洋一 (国立がんセンター研究所・放射線)
- 17:00 W1C-7 Bcl-2 ファミリー蛋白による non-apoptotic プログラム細胞死の制御
清水 重臣, 辻本 賀英 (阪大院医・遺伝子学, JST)
- 17:20 W1C-8 Impaired uptake of apoptotic cells and autoimmune disease
Rikinari Hanayama¹, Masato Tanaka³, Shigekazu Nagata^{1,2} (¹Osaka Univ. Medical School, Dept. of Genetics, ²Osaka Univ. Grad. Sch. of Frontier Biosciences, ³RIKEN, RCAI)
- 17:40 W1C-9 ASC による NF- κ B の活性化と IL-8 産生の誘導には caspase-8 が関与する
長谷川 瑞穂¹, 今村 龍¹, 木下 健¹, 松本 則彦¹, 増本 純也², 猪原 直弘², 須田 貴司¹ (¹金沢大・がん研・分子標的, ²ミシガン大・医・病理)

..... W1D クロマチンと遺伝子発現の核内クロストーク

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 D会場(神戸国際会議場 国際会議室)
世話人/座長: 大熊 芳明(阪大・院生命機能), 伊藤 敬(長崎大・院医歯薬)

15:15 はじめに

大熊 芳明(阪大・院生命機能)

15:20 W1D-1 Regulation of Transcription in Animal Cells: Integrated Functions of Diverse Coactivators
Robert, G. Roeder (Lab. Biochem. and Mol. Biol., The Rockefeller Univ.)

16:05 W1D-2 Nucleosomal Histone Kinase-1 Phosphorylates H2A Thr 119 During Mitosis in the Early Drosophila Embryo
Hitoshi Aihara¹, Takeya Nakagawa¹, Kiyoshi Yasui¹, Tsutomu Ohta², Susumu Hirose³, Masami Muramatsu⁴, Takashi Ito¹ (¹Nagasaki Univ. School Med., Dept. Biochem., ²National Cancer Cent. Res. Inst., ³National Inst. Genetics, ⁴Saitama Med. School, Res. Cent. Genomic Med.)

16:27 W1D-3 エピジェネティクス制御の分子機構

西岡 憲一, 広瀬 進(国立遺伝学研究所)

16:49 W1D-4 転写に伴うRNAポリメラーゼIIの本体と最大サブユニットC末端リピート領域の変化

大熊 芳明^{1,2,4}, 林 和洋^{1,2}, 田中 亜紀^{1,2}, 古元 義^{1,2}, 佐藤 - 土屋 千晶^{1,2}, 花岡 文雄^{1,2,3,4} (¹阪大・院・生命機能, ²阪大・院・薬, ³理研・細胞生理, ⁴科技団・CREST)

17:11 W1D-5 核内レセプターの制御ネットワークとクロマチン

柳澤 純(筑波大・生命環境科学)

17:33 W1D-6 RNAポリメラーゼIIのCTDのリン酸化とDSIFによる真核生物の転写活性化機構

和田 忠士, 岡部 幸子, 相田 将俊, 半田 宏(東工大院・生命理工)

17:55 終わりに

伊藤 敬(長崎大・院医歯薬)

..... W1E AAA+ タンパク質の細胞機能と構造

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 E会場(神戸国際会議場 401/402)
世話人/座長: 田村 茂彦(九大・院理), 小椋 光(熊本大・発生研)

15:15 W1E-1 AAA+ タンパク質の構造と動作原理

小椋 光(熊本大・発生研・細胞複製)

15:25 W1E-2 6量体RuvBタンパク質のArginine174はATP加水分解における分子間の協調的な働きに必須の役割を果たしている

菱田 卓¹, 韓 雲龍², 藤本 聡子³, 岩崎 博史⁴, 品川 日出夫¹ (¹阪大・微生物病研究所, ²東京都臨床研, ³理研, ⁴横浜市立大学)

15:40 W1E-3 ダイニン分子の構造と機能

豊島 陽子(東大・総合文化・生命環境)

16:00 W1E-4 p97-mediated membrane fusion

内山 圭司^{1,2}, 近藤 久雄^{1,2} (¹三菱化学生命科学研究所, ²科学技術振興機構 SORST)

16:20 W1E-5 神経変性疾患におけるVCP蛋白質の役割

垣塚 彰(京大・院・生命)

16:40 W1E-6 分子シャペロン依存的なポリグルタミンの凝集体形成及び酵母プリオンの形質転換における凝集体の役割

木村 洋子¹, 小坂橋 寿実子², 藤田 尚志² (¹都臨床研 先端, ²都臨床研 腫瘍細胞)

- 16:50 W1E-7 分子シャペロン ClpB の構造と機能
渡辺 洋平, 高野 美佐, 吉田 賢右 (東工大・資源研)
- 17:05 W1E-8 AAA タンパク質であるペルオキシシン Pex1p の複合体構造とその役割
田村 茂彦¹, 藤木 幸夫^{1,2} (¹九州大・院理・生物, ²科学技術振興機構・SORST)
- 17:20 W1E-9 エンドソーム関連タンパク質に見られるドメインのNMRによる構造生物学的解析
高須 博敏¹, 池 峻求², 合田 名都子¹, 大野 綾子¹, 朽尾 豪人¹, 廣明 秀一¹, 白川 昌宏¹ (¹横浜市大・総合理, ²National Institutes of Health)
- 17:35 W1E-10 AAA プロテアーゼ FtsH による基質タンパク質の分解機構
奥野 貴士, 福永 里美, 山中 邦俊, 小椋 光 (熊本大・発生研・細胞複製)
- 17:45 W1E-11 AAA⁺ プロテアーゼによる下痢原性大腸菌 TypeIII 輸送装置の発現調節
友安 俊文, 半田 浩, 高屋 明子, 山本 友子 (千葉大・院薬・微生物薬品化学)

..... W1F SUMO 修飾による分子複合体の機能・構造変換

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 F会場(神戸国際会議場 501)
世話人/座長: 斉藤 寿仁 (熊本大・発医セ), 田中 克典 (島根大・生物資源), 安田 秀世 (日本製粉(株)中研)

- 15:15 はじめに
斉藤 寿仁 (熊本大・発医セ)
- 15:20 W1F-1 SUMO 修飾による核複合体リモデリング
内村 康寛¹, 斉藤 典子¹, 三浦 さき子^{1,2}, 土山 幸美^{1,2}, 中村 秀明^{1,3}, 中尾 光善¹, 斉藤 寿仁¹ (¹熊本大・発生医研セ・器官制御, ²熊本大・工・物質生命, ³熊本大・薬・遺伝子機能応用)
- 15:35 W1F-2 SUMO 化による蛋白質の機能・構造変換の構造学的研究
馬場 大地¹, 天野 剛志¹, 大田 哲也¹, 加藤 武司¹, 廣明 秀一¹, 朽尾 豪人¹, 内村 康寛², 斉藤 寿仁², 菅澤 薫³, 花岡 文雄^{3,4}, 白川 昌宏¹ (¹横浜市立大・大学院総合理, ²熊本大・発生医学研究センター・再建医学・器官制御, ³理研・細胞生理, ⁴大阪大・院生命機能)
- 15:55 W1F-3 SUMO 化修飾によるクロマチン動態制御
藤瀬 次弘¹, Hayes McDonald², 岩瀬 広樹¹, 松田 英幸¹, 川向 誠¹, John R. Yates 3rd², 田中 克典¹ (¹島根大・生物資源・生命工, ²The Scripps Research Institute, Dept. Mol. Biol. & Cell Biol)
- 16:10 W1F-4 AML1 転写因子複合体のリン酸化・SUMO-1 化による制御
北林 一生, 相川 祐規子, 田形 勇輔, 吉田 均 (国立がん研・分子腫瘍)
- 16:25 W1F-5 DNA トポイソメラーゼ II 誘導分解における SUMO 修飾の役割
佐野 訓明¹, 本多 弘明¹, 細谷 修¹, 筒井 公子¹, 筒井 研^{1,2} (¹岡山大院・医歯学総合, ²岡山大・生命科学研)
- 16:45 W1F-6 PPAR-gamma の転写活性制御と SUMO-1 化修飾
大島 隆幸, 古賀 裕士, 下遠野 邦忠 (京大・ウイルス研・ヒトがんウイルス)
- 17:00 W1F-7 SUMO 化による転写因子 MafG の機能変換
本橋 ぼづみ, 勝岡 史城, 山本 雅之 (筑波大・人間総合科学)
- 17:15 W1F-8 SUMO 修飾による転写因子 Bach2 の局在および機能制御
田代 聡, 原野 由美, 河野 和輝, 小野 厚, 武藤 哲彦, 五十嵐 和彦 (広島大院・医歯薬学総合・医化学)
- 17:35 W1F-9 軟骨特異的転写因子 Sox9 の SUMO 化による活性調節
服部 高子^{1,3}, 西田 有², 華表 友暁², 滝川 正春¹, Benoit de Crombrughe³, 安田 秀世⁴ (¹岡山大・院・医歯学総合・口腔生化学・分子歯科, ²東薬大・生命, ³MD Anderson Cancer Center, TX, U.S.A., ⁴日本製粉(株)中央研究所)
- 17:50 終わりに
安田 秀世 (日本製粉(株)中研)

..... W1G 統合失調症の分子生物学；最新基礎生物学から臨床ゲノム研究まで.....

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 G会場(神戸国際会議場 502)
世話人/座長: 尾崎 美和子(理研・脳科学総研セ), 那波 宏之(新潟大・脳研)

- 15:15 W1G-1 統合失調症の候補遺伝子の探索；ヒューマンゲノムの立場から
有波 忠雄^{1,2,3}(¹筑波大・医・遺伝,²CREST,³JSSLG)
- 15:38 W1G-2 統合失調症遺伝子の探索：マウスゲノムの立場から行動解析まで
吉川 武男(理研・脳科学総合研究センター)
- 16:01 W1G-3 認知障害モデル動物とその分子メカニズム
宮川 剛(京都大・医・先端領域)
- 16:24 W1G-4 Fyn is involved in psychopharmacological function and altered in schizophrenia patients
Kotaro Hattori^{1,2}, Tomo Hashiguchi³, Hiroshi Fukuzako³, Shun Hamada^{1,2}, Takeshi Yagi^{1,2}(¹Osaka Univ., FBS, KOKORO Biol. Group, ²CREST, JST, ³Kagoshima Univ., Fac. Med., Dept. Neuropsychiatry)
- 16:47 W1G-5 神経栄養因子の作用変調による認知行動異常；統合失調症との関連
那波 宏之, 任海 学, 津田 法子, 外山 英和, 水野 誠(新潟大・脳研・分子神経)
- 17:10 W1G-6 神経回路形成と機能発達におけるニューレグリン1の役割
尾崎 美和子¹, 水野 誠³, 山口 和彦¹, 端川 勉², 伊藤 康一⁴, 那波 宏之³(¹理研・脳セ・記憶学習,²神経構築,³新潟大・脳研・分子神経生物,⁴徳島文理大・香川薬学・分子薬理)
- 17:33 W1G-7 メトアンフェタミンに発達依存的応答を示す遺伝子 mrt1 と統合失調症の逆耐性モデル
西川 徹(医歯大院・精神行動)

..... W1H ラパマイシン標的蛋白 TOR を介するシグナル伝達研究の進展.....

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 H会場(神戸国際会議場 503/504/505)
世話人/座長: 米澤 一仁(神戸大・バイオシグナル研究セ), 鎌田 芳彰(基生研・エネルギー変換)

- 15:15 W1H-1 出芽酵母 YPK2 プロテインキナーゼの TOR2 による活性化機構
鎌田 芳彰, 大隅 良典(基礎生物学研究所)
- 15:35 W1H-2 酵母 TOR 経路における必須因子 Lst8p の機能
前田 達哉, 米山 京, 神谷 昌男, 梅田 達也(東大・分生研)
- 15:47 W1H-3 分裂酵母 TOR 経路の有性生殖制御における役割
松尾 朋彦, 大坪 瑤子, 山本 正幸(東大・院理・生化)
- 16:07 W1H-4 分裂酵母の TOR 経路の上流の因子の遺伝学的解析
日高 秀敏¹, 鈴木 絵理¹, 上野 勝¹, 丑丸 敬史¹, 松本 智裕², 登田 隆³, 瓜谷 真裕¹(¹静岡大・理,²京大・放射線生物研究センター,³Cancer Research UK)
- 16:19 W1H-5 mTOR を介し細胞機能を制御するシグナル伝達系の研究
米澤 一仁^{1,2}, 大城 紀子^{1,2}, 中嶋 昭雄^{1,2}, 江口 賢史^{1,2}, 徳永 千春^{1,2}, 吉野 健一^{1,2}(¹神戸大・バイオシグナル研,²科学技術振興機構・CREST)
- 16:36 W1H-6 癌抑制遺伝子 PTEN による生体制御
鈴木 聡¹, 佐々木 雄彦², 濱田 浩一¹, 岸本 忍征¹, 佐々木 純子¹, 夏井 美幸³, 堀江 泰夫³, 渡邊 純夫^{3,4}, 仲野 徹⁴(¹秋田大・医・分子医科学,²秋田大・医・21世紀COEプログラム,³秋田大・医・消化器内科学,⁴阪大・医・病理学)
- 16:56 W1H-7 TSC gene mutants におけるラパマイシンによるシグナル治療の実際
樋野 興夫^{1,2}, 小林 敏之^{1,2}, 梶野 一徳²(¹順天堂大学医学部病理学,²癌研 実験病理部)

- 17:16 W1H-8 Significance of Rheb GTPase in mTOR signaling
Juran Kato-Stankiewicz, Susie Miyamoto, Chia-Ling Gau, Nitika Thapar, Fuyuhiko Tamanoi (Dept of Microbio., Immunol. & Molec. Genet. University of California Los Angeles)
- 17:28 W1H-9 神経細胞における mTOR シグナルによる翻訳調節と脳機能への関与
稲村 直子¹, 那波 宏之¹, 原 賢太^{2,4}, 米澤 一仁^{3,4}, 武井 延之¹ (¹新潟大学脳研究所, ²神戸大学医学部老年内科, ³神戸大学バイオシグナル研究センター, ⁴CREST)
- 17:40 W1H-10 Colonic polyposis caused by mTOR-mediated chromosomal instability in Apc 716Cdx2 compound mutant mice
Makoto Taketo¹, Koji Aoki¹, Yoshitaka Tamai², Shigeo Horiike^{1,3}, Masanobu Oshima¹, Aoki Masahiro¹ (¹Kyoto Univ., Grad. Sch. Med., Dept. Pharmacol., ²Banyu Tsukuba Research Institute, ³Kyoto Pref. Univ., 3rd Dept. Int. Med.)

..... W1I セントロメアにおける生命現象

- 2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 I会場(ポートピアホテル 偕楽1)
世話人/座長: 仁木 宏典(国立遺伝研・放射線アイソトープセ), 岩崎 博史(横浜市大・総合理)
- 15:15 W1I-1 THE HUMAN SGT1-HSP90 COMPLEX IS REQUIRED FOR THE ASSEMBLY OF KINETOCHORE PROTEIN COMPLEXES
Yohei Niikura, Satoshi Ohta, Parmil Bansal, Rashid Abdulle, Katsumi Kitagawa (Dept. Mol. Pharm. St. Jude Children's Research Hospital)
- 15:40 W1I-2 A MAD2-Binding protein, CMT2, is a plus end of microtubule binding protein and influences spindlecheckpoint protein MAD2 localization in mitosis.
TOSIYUKI HABU (Kyoto Univ., Rad. Biol. Centr.)
- 15:53 W1I-3 Mis6 動原体複合体はM期チェックポイント蛋白 Mad2 の動原体集積に必要である
齋藤 成昭, 石井 浩二郎, 小林 妥世, 高山 優子, 増田 史恵, 高橋 考太(久留米大・分生研・細胞工)
- 16:03 W1I-4 ヒト間期セントロメア複合体(I-CEN complex) 構成因子の解析
依田 欣哉¹, 野崎 直仁², 小布施 力史³, 楊 樺¹, 後藤 正平⁴, ペリベレスク マリネラ¹ (¹名大・生物機能開発セ, ²神奈川歯科大・口腔生化, ³京大・院・生命科学, ⁴名大・院理・生命理学)
- 16:16 W1I-5 分裂酵母におけるヘテロクロマチン構造形成・維持の分子機構
中山 潤一^{1,2}, 定家 真人² (¹理研・発生再生センター, ²科学技術振興機構・さきがけ)
- 16:29 W1I-6 Ams2 依存的な SpCENP-A セントロメア局在化機構
高山 優子^{1,2}, 齋藤 成昭², 増田 史恵², 小林 妥世², 高橋 考太^{2,3} (¹日本学術振興会, ²久留米大学 分生研, ³科学技術振興機構 さきがけ)
- 16:39 W1I-7 ヒト人工染色体を利用した染色体機能解析
池野 正史¹, 鈴木 伸卓¹, 西井 一宏², 伊藤 三栄子¹, 岡崎 恒子¹ (¹藤田保衛大・総医研, ²藤田保衛大・疾患モデルセンター)
- 16:52 W1I-8 Bi-orienting chromosomes on the mitotic spindle
Kozo Tanaka, Hilary Dewar, Tomoyuki Tanaka (School of Life Sciences, University of Dundee, UK)
- 17:17 W1I-9 バクテリアの染色体分配に関与するセントロメア様領域
仁木 宏典^{1,2} (¹総研大・生命科学, ²遺伝研・RI)
- 17:30 W1I-10 Structural and functional contributions of condensins I and II to centromere/kinetochore assembly in human cells
Takao Ono^{1,2}, Yuda Fang¹, David Spector¹, Tatsuya Hirano¹ (¹Cold Spring Harbor Lab., ²Aichi Human Serv. Ctr., Inst. Dev. Res.)
- 17:43 W1I-11 分裂期染色体の構造解明に向かって - 電子顕微鏡 Tomography を用いた解析
前島 一博¹, 今本 尚子¹, Laemmli Ulrich² (¹理研・細胞核機能, ²スイス・ジュネーブ大)

..... W1J 減数分裂における染色体動態

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 J会場(ポートピアホテル 偕楽2)
世話人/座長: 篠原 彰(阪大・蛋白研), 丹羽 修身(かずさDNA研)

- 15:15 W1J-1 はじめに
篠原 彰^{1,2,3}(¹阪大・蛋白研, ²阪大・院理・生物, ³JST・さがけ)
- 15:20 W1J-2 出芽酵母 Mre11, Spo11 の減数分裂期染色体上でのダイナミックな再配置とコヒーシ部位との関係
久郷 和人^{1,2}, 森 沙織³, 笹沼 博之^{1,2}, 白髭 克彦⁴, 柴田 武彦⁵, 太田 邦史^{1,2,5}(¹理研・遺伝ダイナミクス, ²埼玉大院・理工, ³横浜市大, ⁴東工大・生命理工, ⁵理研・遺伝生)
- 15:35 W1J-3 減数分裂時に特異的に発現するヒストンメチル化酵素 meisetz の機能解析
林 克彦^{1,2}, 松居 靖久^{1,2,3}(¹大阪府立母子センター・研究所・病因病態, ²CREST, JST, ³東北大・加齢研)
- 15:50 W1J-4 相同染色体の対合に必要なとされる染色体構造とコヒーシ
丁 大橋, 平岡 泰(関西先端研究センター生物情報グループ, CREST/JST)
- 16:10 W1J-5 分裂酵母における三倍体減数分裂と異数体の生成
丹羽 修身, 丹下 喜恵, 倉林 篤史(かずさDNA研究所)
- 16:30 W1J-6 ホーステール核運動をもたらす星状微小管の形成に必要なスピンドル極体タンパク質 Hrs1 の解析
田中 加代子¹, 幸田 俊希¹, 加々美 綾乃¹, 山下 朗², 野中 信宏¹, 山本 正幸^{1,2}(¹東大・院理・生物化学, ²東大・遺伝子実験施設)
- 16:50 W1J-7 減数分裂における動原体の一方方向性を制御する Moa1
横林 しほり¹, 渡辺 嘉典^{1,2}(¹東大・分生研, ²SORST 科技構)
- 17:10 W1J-8 減数分裂におけるスピンドルチェックポイント因子 Mad2 と Bub1 の働き
山本 歩, 平岡 泰(情通機構・生物情報 / CREST)
- 17:25 W1J-9 分裂酵母 Cdc7 様キナーゼ Spo4 の減数分裂進行における役割
中村 太郎, 淡路 萌, 下田 親(大阪市大・院理・生物地球)
- 17:45 W1J-10 出芽酵母のグルカン合成酵素は胞子壁の強度維持に重要である
石原 聡, 平田 愛子, 大矢 禎一(東大・院新領域・先端生命科学)

..... W1K 免疫制御と補助シグナル

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 K会場(ポートピアホテル 偕楽3)
世話人/座長: 岡崎 拓(京大・院医), 東 みゆき(東京医歯大・分子免疫)

- 15:15 W1K-1 CD25+CD4+ 制御性T細胞とIL-10 産生T細胞における補助刺激分子を介した免疫応答調節
東 みゆき¹, 岩井 秀之¹, 坂口 志文²(¹東京医歯大・分子免疫, ²京大・再生研・生体機能調節)
- 15:40 W1K-2 ネコ免疫不全ウイルスの受容体はCD134 (OX40) である
宮沢 孝幸^{1,2}(¹帯畜大・獣医, ²JST・PRESTO)
- 16:05 W1K-3 T細胞, NK細胞による免疫応答における DNAM-1 (CD226) の機能
渋谷 彰, 田原 聡子, 渋谷 和子(筑波大学院人間総合科学, 基礎免疫)
- 16:30 W1K-4 The role of SOCS3 in the development and maintenance of allergic inflammation
Masato Kubo (RCAI, RIKEN Yokohama Institute)
- 16:55 W1K-5 A20 によるウイルス・二重鎖RNA誘導性IRF-3, NF-kappaB 活性化制御
斎藤 達哉¹, 山本 雅裕², 宮岸 真^{3,4}, 多比良 和誠^{3,4}, 中西 真⁵, 藤田 尚志⁶, 審良 静男^{2,7}, 山本 直樹¹, 山岡 昇司¹(¹東京医歯大・院医歯学総合, ²阪大・微研, ³東大・院工, ⁴AIST, ⁵名市大・院医, ⁶都臨床研・腫瘍細胞, ⁷ERATO)

- 17:10 W1K-6 骨免疫制御における RANKL の補助シグナル
高柳 広^{1,2} (¹東京医科歯科大学大学院分子細胞機能学・21世紀COEプログラム, ²科学技術振興機構さきがけ研究21)
- 17:35 W1K-7 PD-1 欠損はNOD マウスにおいて Th1 細胞を活性化し, I 型糖尿病を増悪させる
岡崎 拓^{1,2}, 王 鍵^{1,2}, 吉田 卓³, 湊 長博³, 本庶 佑² (¹京都大・医・21世紀COE, ²京都大・医・分子生物, ³京都大・生命・生体制御)

..... W1L グライコワールドの新展開

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 L会場(ポートピアホテル 和楽)
世話人/座 長: 遠藤 玉夫(都老人研・糖蛋白質), 野村 一也(九大・院理)

- 15:15 W1L-1 Protein O-mannosylation and its pathology
Tamao Endo (Tokyo Met. Insti. of Gerontol., Glycobiology)
- 15:30 W1L-2 糖鎖認識ユビキチンリガーゼ SCF^{Fbs1} の基質認識機構のNMR 解析
平尾 武士^{1,2}, 山口 芳樹^{1,2}, 吉田 雪子^{2,3}, 鈴木 匡^{2,4}, 田中 啓二³, 加藤 晃一^{1,2,5} (¹名古屋市立大学大学院薬学研究科, ²CREST/JST, ³東京都臨床医学総合研究所, ⁴大阪大学大学院医学研究所, ⁵理研・GSC)
- 15:42 W1L-3 細胞分裂と形態形成を支配する糖鎖 - モデル生物 *Caenorhabditis elegans* を用いた機能解析
水口 惣平^{1,2}, 野村 和子^{1,2}, 出嶋 克史^{1,2}, 安藤 恵子^{2,3}, 三谷 昌平³, 川崎 ナナ^{2,4}, 金井 好克^{2,5}, 瀬古 玲^{2,6}, 北川 裕之^{2,7}, 菅原 一幸⁷, 野村 一也^{1,2} (¹九州大・理院・生物科学, ²科学技術振興機構 CREST, ³東京女子医大・医・第二生理, ⁴国立衛研・生物薬品, ⁵杏林大・医・薬理, ⁶佐々木研・生化学, ⁷神戸薬科大・生化学)
- 16:02 W1L-4 Nematode chondroitin polymerizing factor showing cell/organ-specific expression is indispensable for chondroitin synthesis and embryonic cell division
Tomomi Izumikawa¹, Hiroshi Kitagawa^{1,3}, Souhei Mizuguchi^{2,3}, Kazuko Nomura^{2,3}, Kazuya Nomura^{2,3}, Jun-ichi Tamura⁴, Keiko Ando^{3,5}, Shohei Mitani⁵, Kazuyuki Sugahara¹ (¹Kobe Pharm. Univ., Dept. Biochem., ²Kyushu Univ. Graduate Sch., Fac. Sci., Dept. Biol. Sci., ³CREST, JST, ⁴Tottori Univ., Fac., Reg. Sci., Dept. Reg. Environment, ⁵Tokyo Woman 's Med. Univ., Dept. Physiol.)
- 16:22 W1L-5 分泌型 ADAM, MIG-17 の糖鎖修飾は器官形成に必須である
伊原 伸治, 西脇 清二 (理研 発生・再生 細胞移動研究チーム)
- 16:42 W1L-6 ショウジョウバエ *fringe connection* のホモログであるヒト新規糖ヌクレオチド輸送体の単離と機能解析
神山 伸¹, 須田 健^{1,4}, 合田 絵美¹, 菊池 紀広², 仲山 賢一³, 成松 久³, 地神 芳文³, 西原 祥子^{1,4} (¹創価大・工・生命情報, ²三井情報, ³産総研・糖鎖工学研究センター, ⁴CREST, JST)
- 16:54 W1L-7 神経系におけるスフィンゴ(糖)脂質合成の重要性
平林 義雄 (理研・脳科学センター)
- 17:14 W1L-8 Klotho 蛋白の分子機能
鍋島 陽一 (京大医腫瘍生物)
- 17:34 W1L-9 糖鎖構造データベース GLYCAN
五斗 進 (京大・化研・バイオインフォマティクスセンター)

..... W1N シグナル伝達分子のダイナミクス

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 N会場(ポートピアホテル 大輪田A)
世話人/座長: 松田 道行(阪大・微研), 米田 悦啓(阪大・院生命機能)

- 15:15 W1N-1 細胞膜上で一時的に形成される信号複合体における Ras シグナル伝達
小林 剛¹, 村上・田中 瑞奈², 武田 美江¹, 吉村 昭彦³, 楠見 明弘^{1,2} (¹JST・SORST, ²名大院・理・生命理学, ³九大・生体防御)
- 15:45 W1N-2 高感度1分子相互作用計測により検出された細胞間接着分子ダイナミクス
塚崎 克和¹, 喜多村 和郎², 清水 一也³, 岩根 敦子¹, 高井 義美³, 柳田 敏雄¹ (¹阪大・生命・ナノ, ²ロンドン大・ウォルフソン生物医学, ³阪大院・医学・生化学)
- 16:00 W1N-3 Visualizing processive actin capping by Formins and actin turnover kinetics using single-molecule speckle microscopy
Naoki Watanabe^{1,2}, Chiharu Higashida¹, Takushi Miyoshi¹ (¹Kyoto Univ. Fac. Med., ²PRESTO-JST)
- 16:30 W1N-4 Rap1-RAPL シグナルによる血管内皮細胞の運動制御
望月 直樹, 藤田 寿一, 福原 茂朋(国循セ・研・循環)
- 17:00 W1N-5 生細胞における GFP 由来タンパク質の蛍光寿命測定と FRET の観測
木下 耕史¹, 高田 麻実子², 福村 裕史², 十川 和博¹ (¹東北大・院・生命科学, ²東北大・院・理)
- 17:15 W1N-6 Involvement of a PKC-dependent signaling module in addition to MEK-dependent pathway (Raf MEK ERK) in ERK2 active translocation into the nucleus
Kunio Takishima¹, Yasushi Sato¹, Satoshi Shimozono², Hiroyuki Katayama², Norikazu Sugiyama³, Yoshihiro Tanigawa³, Shogo Endo⁴, Atsushi Miyawaki² (¹National Defense Medical College, Dept. Biochem. 1., ²RIKEN, BSI, Lab. for Cell Function and Dynamics., ³Hamamatsu Photonics, Research product sales department, system division, ⁴RIKEN, BSI, Lab. for Learning and Memory,)
- 17:30 W1N-7 核蛋白質輸送因子 importin のダイナミクス
米田 悦啓, 宮本 洋一, 安田 善也(大阪大・院・生命機能)

..... W1O RNA-protein complex : 超分子システムの機能発現に迫る

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 O会場(ポートピアホテル 大輪田B)
世話人/座長: 坂本 博(神戸大・理), 谷 時雄(熊本大・理), 剣持 直哉(宮崎大・フロンティア科学)

- 15:15 座長オーバービュー
剣持 直哉(宮崎大・フロンティア科学)
- 15:20 W1O-1 リボソームアーキテクチャーにおける rRNA の役割と機能発現
鈴木 勉(東大・工・化生)
- 15:35 W1O-2 リボソームトンネルと相互作用する SecM による SecA の制御
中戸川 仁^{1,3}, 村上 亜希子^{1,2}, 武藤 洋樹^{1,2}, 森 博幸^{1,2}, 伊藤 維昭^{1,2} (¹京大・ウイルス研, ²科学技術振興機構・CREST, ³(現)基生研)
- 15:50 W1O-3 ヒトリボソームタンパク質遺伝子の類似性と多様性に関する網羅的解析
鷲尾 尊規^{1,2}, 石井 強太^{2,3}, 上地 珠代⁴, 吉浜 麻生⁴, 剣持 直哉⁴, 富田 勝^{2,3} (¹奈良先端大・情報, ²慶大・先端生命研, ³慶大・環境情報, ⁴宮崎大・フロンティア)
- 16:05 W1O-4 リボソーム構成タンパクの突然変異はマウス形態形成異常を引き起こす
石島 淳子^{1,4}, 清水 邦彦^{2,4}, 吉川 欣亮³, 米川 博通³, 城石 俊彦⁴ (¹北大・先端研, ²日大・歯, ³臨床研, ⁴遺伝研)
- 16:20 W1O-5 アポトーシス細胞における S19 リボソーム蛋白のリボソーム外機能
山本 哲郎, 西浦 弘志(熊本大・院・医薬研・分子病理)

16:35 座長オーバービュー

谷 時雄 (熊本大・理)

16:40 W1O-6 哺乳類の snoRNP 生合成に関わる複数の核内因子

廣瀬 哲郎^{1,2,3}, 稲田 美智¹, Mei-Di Shu³, 萩原 正敏², Joan A Steitz³ (¹ 科技構・さがけ, ² 東京医科大学・疾患生命, ³ Yale Univ Sch Med, HHMI)

16:55 W1O-7 tRNA の 3' 末端修復酵素の分子機構, 進化に関する研究

富田 耕造¹, 深井 周也², 竹内 野乃³, Alan Weiner⁴, 濡木 理² (¹ 産業技術総合研究所生物機能工学, ² 東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻, ³ 東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻, ⁴ ワシントン大学 (シアトル))

17:10 W1O-8 XPB の分裂酵母相同因子 Ptr8p は mRNA 核外輸送に加えて, tRNA, rRNA の核外輸送にも関与する

水城 史貴, 佐藤 博, 松坂 理夫, 安東 知子, 谷 時雄 (熊本大・理・理)

17:25 W1O-9 Human TREX complex は, 転写に依存しないで mRNA にリクルートされる

増田 誠司^{1,2}, Rita Das², Nijsje Dorman², Robin Reed² (¹ 京都大・生命・統合生命, ² Harvard Medical School, Dept. Cell Biol.)

17:40 W1O-10 ゼブラフィッシュ生殖細胞形成過程に働く RNA-蛋白質複合体

三嶋 雄一郎¹, 小坂 恭子¹, 橋本 祥子², 藤原 俊伸¹, 川上 浩一³, 安田 國雄², 坂本 博^{1,4}, 井上 邦夫^{1,4} (¹ 神戸大・自然科学, ² 奈良先端大・バイオ, ³ 国立遺伝研, ⁴ 神戸大・理・生物)

..... W1P RNA Biotechnology

2004 年 12 月 8 日 (水)

15:15 ~ 18:00

P 会場 (ポートピアホテル 大輪田 C)

世話人 / 座 長 : 菅 裕明 (東大・先端研), 井川 善也 (京大・院生命科学)

15:15 講演者の紹介

菅 裕明 (東大・先端研), 井川 善也 (京大・院生命科学)

15:20 W1P-1 Molecular mechanism and application of RNAi/microRNA in mammalian cells

Hiroaki Kawasaki^{1,2}, Kazunari Taira^{1,2} (¹ The Tokyo Univ., School of Engineering, ² AIST, GeneFunction Center)

15:50 W1P-2 Genome RNA technology and leukemia

Katsumi Kasashima^{1,2}, Eri Sakota¹, Yoshikazu Nakamura², Tomoko Kozu¹ (¹ Saitama Cancer Center, Res. Inst. Clin.Oncol., ² Univ.Tokyo, Inst. Med. Sci., Dept. Basic Med. Sci.)

16:20 W1P-3 Design and selection of catalytic RNAs with “ RNA architecture ” approach

Yoshiya Ikawa, Kentaro Tsuda, Wataru Yoshioka, Shigeyoshi Matsumura, Tan Inoue (Kyoto Univ., Grad. Sch. Biostudies)

16:50 W1P-4 An artificial ribozyme for reprogramming the genetic code

Hiroaki Suga, Hiroshi Murakami (The University of Tokyo, Research Center for Advanced Science and Technology)

17:20 W1P-5 Recent advances in therapeutic and drug discovery applications of aptamers

Charles Wilson (Archemix Corporation)

17:50 Extra time and Conclusion

菅 裕明 (東大・先端研), 井川 善也 (京大・院生命科学)

..... W1Q 免疫系細胞の発生・分化の分子機構.....

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 Q会場(神戸商工会議所会館 神商ホール)
世話人/座長: 生田 宏一(京大・ウイルス研), 河本 宏(理研・免疫アレルギーセ)

- 15:15 W1Q-1 Prethymic pathway of T cell development
Hiroshi Kawamoto (Riken, RCI, Lab. Lymph. Dev.)
- 15:38 W1Q-2 *Rit1/Bcl11b* 欠損マウスのT細胞分化とVDJ組み換え
井上 順, 岡塚 貴世志, 三嶋 行雄, 木南 凌(新潟大院・歯学系・分子生物)
- 15:49 W1Q-3 ポリコム遺伝子群 mel-18 によるT前駆細胞の増殖制御
宮崎 正輝¹, 河本 宏², 宮崎 和子³, 加藤 裕子¹, 糸井 マナミ⁴, 増田 喬子², 雨貝 孝⁴, 菅野 理恵子¹, 菅野 雅元¹ (¹広島大, 歯学系, 免疫学, ²理研免疫アレルギー, 免疫発生, ³広島大, 原医研, 組織再生制御, ⁴明治鍼灸大, 免疫微生物)
- 16:00 W1Q-4 クロマチン構造変換因子 Mi-2 のT細胞の発生とCD4遺伝子の制御における役割
内藤 拓, Christine Williams, Katia Georgopoulos (マサチューセッツ総合病院・ハーバード大医)
- 16:11 W1Q-5 熱ショック応答と免疫応答のクロストーク
井上 幸江¹, 藤本 充章¹, 高木 栄一¹, 鈴木 春巳², 白井 睦訓², 横田 義史³, 市川 仁⁴, 中井 彰¹ (¹山口大・院医・生体シグナル, ²微生物学, ³福井医大・医・1生化, ⁴国立がんセ・腫瘍発現解析)
- 16:22 W1Q-6 Regulation of IL-7 receptor expression during T cell development
Hirofumi Shibata, Hai-Chon Lee, Kazushige Maki, Koichi Ikuta (Kyoto Univ., Inst. Virus Res., Lab. Biol. Prot.)
- 16:45 W1Q-7 Uracil DNA glycosylase activity is dispensable for immunoglobulin class switch
Nasim Begum¹, Kazuo Kinoshita¹, Naoki Kakazu², Masamichi Muramatsu¹, Hitoshi Nagaoka¹, Reiko Shinkura¹, Tasuku Honjo¹ (¹Kyoto Univ., School of Med., Dept. Med. Chem., ²Kyoto Pref. Univ., School of Med., Dept. Mol-Targeting)
- 17:08 W1Q-8 樹状細胞群の分化と活性化の分子機構
本田 賢也, 柳井 秀元, 水谷 龍明, 根岸 英雄, 大場 雄介, 高岡 晃教, 谷口 維紹(東京大・院医・免疫)
- 17:31 W1Q-9 Tリンパ球の機能分化に伴うTh2サイトカイン遺伝子座のクロマチンリモデリング
中山 俊憲, 山下 政克(千葉大・院医・免疫発生)

..... W1R 形態情報のバイオインフォマティクス
 ~ 画像処理による定量化から大規模表現型解析へ

2004年12月8日(水) 15:15 ~ 18:00 R会場(神戸商工会議所会館 会議室 1/2/3)
 世話人/座長: 伊藤 啓(東大・分生研/BIRD), 大浪 修一(慶應大・院理工/BIRD)

15:15 はじめに

伊藤 啓(東大・分生研/BIRD), 大浪 修一(慶應大・院理工/BIRD)

15:19 W1R-1 出芽酵母における細胞形態情報の網羅的・定量的解析

佐野 史^{1,3}, 湯川 格史^{1,3}, 池西 淳¹, 岡 さとみ¹, 渡邊 街香¹, 阪 彩香¹, 渡邊 大輔¹, 園池 公毅¹, 中谷 洋一郎², 大谷 未稚², 斉藤 太郎², 瀬々 潤², 森下 真一^{2,3}, 大矢 禎一^{1,3} (¹東大・新領域・先端生命, ²東大・新領域・情報生命, ³BIRD, JST)

15:42 W1R-2 画像解析による TAXIScan 内細胞走化性の定量化

新田 尚^{1,2}, 玉谷 卓也¹, 金ヶ崎 史朗¹ (¹エフェクター細胞研究所, ²東大大学院工学系研究科)

16:05 W1R-3 画像処理を利用した線虫 *C. elegans* 初期胚の物理構造の動態の解析

大浪 修一^{1,2}, 浦井 充², 増田 えり子², 永井 陽子², 小黒 妙子², 木村 暁¹, 濱橋 秀互^{1,2} (¹慶大・院理工, ²科技構・BIRD)

16:28 W1R-4 シロイヌナズナの in silico 形態形質解析のための3次元形状計測システム

神沼 英里¹, 平田 直彦¹, 津本 裕子^{2,3}, 吉積 毅², 山本 直樹³, 松井 南², 豊田 哲郎¹ (¹理研 GSC・ゲノム情報, ²理研 GSC・植物ゲノム, ³お茶の水大院・人間文化)

16:51 W1R-5 イメージ・バイオインフォマティクスによる植物遺伝子の機能計測

篠村 知子(日立・中研)

17:14 W1R-6 EVE アルゴリズムによるショウジョウバエ脳神経細胞分布の解析

島田 尚^{1,2}, 加藤 健太郎¹, 伊藤 啓^{1,2} (¹東大分生研, ²科技振 BIRD)

17:37 W1R-7 3次元内部構造顕微鏡を用いた生物構造情報を対象としたフェノタイプの数値化の試み

横田 秀夫¹, 覚正 信徳¹, 中村 佐紀子¹, 竹本 智子^{1,2}, 本多 英晴^{1,3}, 小林 大祐^{1,2}, 三島 健稔^{1,2}, 大竹 政光³, 姫野 龍太郎¹ (¹理研・生体力学, ²埼大院・理工, ³明大院・理工)

..... W2A ミトコンドリアゲノムの変異，発ガン，老化.....

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 A会場(神戸国際展示場 2A会議室)
世話人/座長: 太田 成男(日医大・院加齢科学), 康 東天(九大・院医)

- 15:15 W2A-1 ヒトミトコンドリア転写因子A: mtDNAヌクレオイド構造と細胞死
康 東天¹, 神吉 智丈¹, 大垣 吉平¹, 筒井 裕之², 濱崎 直孝¹(¹九州大・院医・臨検, ²九州大・院医・循内)
- 15:32 W2A-2 ミトコンドリアDNAの複製と相対的組み換えの開始誘導機構
凌 楓¹, 堀 晶子^{1,2}, 柴田 武彦¹(¹理研・柴田遺伝生化学研, ²埼玉大・理工・分子生物)
- 15:44 W2A-3 Mitochondrial DNA mutations in human colonic crypt stem cells
Robert Taylor, Laura Greaves, Martin Barron, Langping He, Geoffrey Taylor, Douglass Turnbull
(Univ. Newcastle upon Tyne, Med. Sch.)
- 16:09 W2A-4 Alternative pathways for cell death triggered by accumulation of 8-oxoguanine in nuclear and mitochondrial genomes
SUGAKO OKA¹, MIZUKI OHNO¹, KUNIHICO SAKUMI¹, MASATO FURUICHI², DAISUKE TSUCHIMOTO¹, YUSAKU NAKABEPPU¹(¹Div. Neurofunc. Genomics, Dept. Immunobiol. & Neurisci., Med. Inst. Bioreg. Kyushu Univ., ²Radioisotope Cent., Kyushu Univ.)
- 16:34 W2A-5 Aged Phenotypes and Induction of Angiogenic Molecules in Mitochondrial DNA-Depleted Cells
Myung-Shik Lee, Sun-Young Park, Hwanju Cheon (Samsung Medical Center)
- 16:59 W2A-6 肝臓癌および肝炎患者の血液中に検出されるmtDNA変異
米山 春子^{1,2}, 松浦 悦子³, 山本 順司⁴, 加藤 洋⁵, 小池 克郎^{1,6}(¹癌研・研・遺伝子, ²お茶大院・人間環境科学, ³お茶大・理・生物, ⁴癌研病院・消化器外科, ⁵癌研・研・病理, ⁶北里大・北里生命科学研究)
- 17:11 W2A-7 食道がん培養細胞株におけるミトコンドリアDNAの不安定性
組本 博司¹, 篠田 雅幸², 波戸岡 俊三², 石崎 寛治¹(¹愛知がんセンター・研・中央実, ²愛知がんセンター・病・胸部外科)
- 17:23 W2A-8 腫瘍増殖速度に対するミトコンドリアDNA変異の直接寄与
太田 成男¹, 設楽 雄次郎^{1,2}, 小田 秀明², 水谷 聡¹, 宮戸 靖幸¹(¹日本医大・院・加齢科学・細胞生物, ²東京女子医大・医・病理)
- 17:48 W2A-9 マウスミトコンドリアDNAと造腫瘍性の関係
秋元 美穂¹, 新倉 保², 市川 雅美³, 米川 博通⁴, 中田 和人^{1,5}, 本間 良夫⁶, 林 純一¹(¹筑波大・院生命環境, ²筑波大・院医科学, ³筑波大・生物, ⁴都臨床研, ⁵さががけ, ⁶埼玉がんセンター)

..... W2B タンパク質の品質管理とその破綻

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 B会場(神戸国際展示場 3A会議室)
世話人/座長: 永田 和宏(京大・再生研), 田中 啓二(都臨床研)

- 15:15 Introduction
Kazuhiro Nagata (Kyoto Univ., Inst. for Frontier Med. Sci.)
- 15:20 W2B-1 N-LINKED GLYCANS ACT AS PROTEIN MATURATION AND QUALITY CONTROL TAGS IN THE ENDOPLASMIC RETICULUM.
Daniel N. Hebert (Department of Biochemistry and Molecular Biology, University of Massachusetts)
- 15:55 W2B-2 -Mannosidase-like proteins involved in glycoprotein ERAD
Nobuko Hosokawa^{1,2}, Ikuo Wada^{2,3}, Kazuhiro Nagata^{1,2} (¹Kyoto Univ., Inst. for Frontier Med. Sci., Dept. Molec. Cell. Biol., ²CREST, JST, ³Fukushima Med. Univ. Sch. Med., Inst. Biomed. Sci., Dept. Cell Sci.)
- 16:25 W2B-3 Pathological Roles of the ER Stress-CHOP Pathway
Tomomi Gotoh, Seiichi Oyadomari, Seiji Tajiri, Motoyoshi Endo, Kazutoyo Terada, Masataka Mori (Kumamoto Univ., Grad. Sch. Med. Sci., Dept. Mol. Genet.)
- 16:55 W2B-4 Microtubule-Dependent Autophagy is Required for Cellular Clearance of Aggregated Huntingtin
Atsushi Iwata, Ron Kopito (Department of Biological Sciences, Stanford University)
- 17:30 W2B-5 Mammalian E4 is required for prevention of neuronal degeneration
Keiichi Nakayama^{1,3}, Masaki Matsumoto^{1,3}, Chie Oshikawa^{1,3}, Masayoshi Yada^{1,3}, Keiko Nakayama^{2,3} (¹Dept. Mol. Cell. Biol., Med. Inst. Bioreg., Kyushu Univ., ²Div. Dev. Genet., Ctr. Trans. Adv. Animal Res. Hum. Dis., Tohoku Univ. Sch. Med., ³CREST, JST)

..... W2C 幹細胞の増殖と維持の分子的基盤

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 C会場(神戸国際会議場 メインホール)
世話人/座長: 松崎 文雄(理研CDB), 田賀 哲也(熊本大・発医センター)

- 15:15 W2C-1 Molecules involved in regulation of planarian stem cell system
Kiyokazu AGATA (CDB, RIKEN Kobe)
- 15:35 W2C-2 Differentiating germ cells can revert into functional stem cells in Drosophila melanogaster ovaries
Toshie Kai, Allan Spradling (Carnegie Institution of Washington, Dept. Embryology)
- 15:55 W2C-3 Cell size asymmetry and spindle orientation in asymmetric division of Drosophila neuroblasts
Fumio Matsuzaki, Yasushi Izumi, Naoyuki Fuse, Kanako Hisata (Cell Asymmetry Riken CDB)
- 16:15 W2C-4 Molecular profiling of melanocyte stem cells in mouse hair follicle.
Masatake Osawa, Rasmus Freter, Suzanne Mak, Mariko Moriyama, Shin-Ichi Nishikawa (RIKEN Ctr Developmental Biology Lab. for Stem Cell Biology.)
- 16:35 W2C-5 造血幹細胞の自己複製制御機構における ATM (Ataxia Teleangiectasia Mutated) の役割
平尾 敦, 伊藤 圭介, 新井 文用, 松岡 佐保子, 田久保 圭誉, 須田 年生(慶應大・医・発生分化生物)
- 16:50 W2C-6 Mechanisms underlying cell fate determination in the developing brain
Tetsuya Taga (Dept. Cell Fate Modulation, Inst. Mol. Embryol. & Genet., Kumamoto Univ.)
- 17:10 W2C-7 ゼブラフィッシュ変異体 *ascending and descending* における網膜細胞の過剰増殖は HDAC1 の欠損によって生じる
山口 雅裕¹, 藤森 典子¹, 小森 敦子¹, 前田 龍², 李 海昌³, 野島 康弘³, 岡本 仁^{2,3}, 政井 一郎¹ (¹理研・政井独立主幹研究ユニット, ²理研・脳センター・発生遺伝子制御, ³科学技術振興機構)

- 17:25 W2C-8 **コンディショナル・ノックアウトES細胞を用いたRox-1の機能解析**
 柴山 正樹, 佐藤 充治, 中武 悠樹, 吉田 進昭 (東大・医科研・遺伝子機能)
- 17:40 W2C-9 Mechanisms underlying pluripotency and rapid proliferation of mouse embryonic stem cells.
 Shinya Yamanaka^{1,2} (¹NAIST Ctr. Gene. Info., ²CREST, JST)

..... W2D 発生現象の再発見

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 D会場(神戸国際会議場 国際会議室)
 世話人/座長: 藤森 俊彦(京大・院医), 福田 公子(都立大・院理)

- 15:15 **はじめに**
 藤森 俊彦(京大・院医), 福田 公子(都立大・院理)
- 15:18 W2D-1 **マウス初期胚における細胞系譜解析**
 藤森 俊彦^{1,2}, 黒滝 陽子¹, 鍋島 陽一¹ (¹京大院・医, ²JST・さががけ)
- 15:44 W2D-2 **ニワトリ内胚葉分化・領域化機構**
 福田 公子(都立大・院理・生物科学)
- 16:10 W2D-3 **脊椎動物(魚・鳥類)器官・神経発生における大域的形態形成運動の光転換法によるライブイメージング**
 八田 公平¹, 仲矢 由紀子², 高橋 淑子², 辻井 仁美¹ (¹理研, CDB, ボディプラン, ²理研, CDB, パターン形成)
- 16:36 W2D-4 **バルボックス胚の形態形成運動を駆動する遺伝子InvA**
 西井 一郎(理研・西井独立主幹研究ユニット)
- 17:02 W2D-5 **クモ胚における体軸形成機構の解析**
 秋山-小田 康子^{1,2}, 小田 広樹² (¹JST ささがけ, ²JT 生命誌研究館)
- 17:28 W2D-6 **テントウムシ斑紋のパターン形成機構**
 新美 輝幸^{1,2}, 柳沼 利信¹ (¹名大・院生命農, ²JST・PRESTO)
- 17:54 **総合討論**

..... W2F 免疫系細胞表面受容体の分子認識

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 F会場(神戸国際会議場 501)
 世話人/座長: 前仲 勝実(九大・生医研), 津本 浩平(東北大・院工)

- 15:15 W2F-1 **MHCクラスI分子MILLの構造と機能**
 笠原 正典^{1,2}, 梶川 瑞穂¹, 渡邊 豊¹ (¹総研大・先導研・生命体, ²北大・院医・分子病理)
- 15:40 W2F-2 **T細胞レセプターによるHIV抗原の認識機構**
 上野 貴将(熊本大学エイズセンター)
- 16:00 W2F-3 **A novel MHC class I recognition system by Paired immunoglobulin-like receptor**
 中村 晃, 小林 栄治, 高井 俊行(東北大・加齢研・遺伝子導入, 科学技術振興機構)
- 16:20 W2F-4 **ベア型レセプターPILRによる新規分子PILRリガンドの認識機構**
 荒瀬 尚^{1,2}, 斎藤 隆³, 白鳥 行大¹ (¹阪大・微研・免疫化学, ²科技機構・PRESTO, ³理研・免疫)
- 16:40 W2F-5 **NK細胞による標的細胞認識の分子メカニズム**
 松本 直樹(東京大・新領域・先端生命科学)
- 17:00 W2F-6 **Identification of T Cell Death-Associated Gene 8 (TDAG8) as a Novel Acid Sensing G-protein-Coupled Receptor**
 石井 聡, 木原 泰行, 清水 孝雄(東大・医・生化学・細胞情報)

- 17:15 W2F-7 免疫系糖タンパク質の分子認識における糖鎖修飾の役割
山口 芳樹¹, 西村 真美子¹, 長野 真弓¹, 矢木 宏和¹, 高橋 禮子¹, 内田 和久², 設楽 研也², 加藤 晃一¹
(¹名市大・院薬, ²協和発酵工業(株)東京研究所)
- 17:35 W2F-8 ヒト免疫細胞受容体 ILT/LIR/CD85 ファミリーのリガンド認識の分子基盤
白石 充典¹, 黒木 喜美子¹, 小島 恵理子¹, 津本 浩平², 熊谷 泉², 神田 大輔¹, 前仲 勝実¹ (¹九大・生医研・ワクチン, ²東北大・院工・生工)

..... W2G 高次構造に基づくクロマチン関連タンパク質の機能解明

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 G会場(神戸国際会議場 502)
世話人/座長: 西村 善文(横浜市大・院総合理), 清水 敏之(横浜市大・院総合理)

15:15 はじめに

西村 善文(横浜市大・院総合理)

- 15:20 W2G-1 Structural and functional study of the molecular assembly of the transcription repression complex mediated by the spen-like repressor SHARP

Mariko Ariyoshi, John Schwabe (MRC-LMB, UK)

- 15:50 W2G-2 クロマチンリモデリングタンパク質 CHD1 のクロモドメインの構造解析

奥田 昌彦^{1,2}, 松原 和子³, 堀越 正美³, 西村 善文¹ (¹横浜市立大院・総合理, ²木原記念財団, ³東大・分生研・発生分化構造)

- 16:20 W2G-3 立体構造に基づく PAD (peptidylarginine deiminase) によるヒストンシトルリン化機構の解明

有田 恭平, 清水 敏之, 橋本 博, 中島 克彦, 山田 道之, 佐藤 衛(横浜市立大学・大学院総合理)

- 16:50 W2G-4 Structure and Mechanism of Activation and Inactivation of Caspase-activated DNase

Byung-Ha Oh¹, Eui-Jeon Woo¹, Yeon-Gil Kim¹, Sam-Yong Park² (¹Dept. Life Sciences, POSTECH, Pohang, Kyungbuk, Korea, ²Protein Design Lab., Yokohama City Univ., Yokohama, Japan)

- 17:20 W2G-5 Structural basis for transcription regulation by alarmone ppGpp

Dmitry Vassilyev¹, Anna Perederina¹, Vladimir Svetlov², Vsevolod Patlan¹, Marina Vassilyeva¹, Shun-ichi Sekine¹, Takeshi Hosaka³, Kozo Ochi³, Shigeyuki Yokoyama¹, Irina Artsimovitch² (¹Cellular Signaling Laboratory, RIKEN Harima Institute, Hyogo, Japan, ²Department of Microbiology, The Ohio State University, U S A, ³National Food Research Institute, Tsukuba, Japan)

17:50 終わりに

清水 敏之(横浜市大・院総合理)

..... W2H 合理的な作用機序をもった人工タンパク質製剤の開発

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 H会場(神戸国際会議場 503/504/505)

世話人/座長: 芝 清隆(癌研・蛋白創製), 近藤 科江(京大・院医)

15:15 はじめに

芝 清隆(癌研・蛋白創製)

15:25 W2H-1 ドメインの組み合わせ・積み木細工による多機能抗体の創出: 癌免疫療法への展開

津本 浩平, 浅野 竜太郎, 熊谷 泉(東北大)

15:55 W2H-2 膜透過能と低酸素特異的局在機能を持つPTD-ODDペプチドを用いたタンパク質製剤の開発

近藤 科江^{1,2}, 原田 浩¹, 平岡 真寛¹(¹京大・医・放射線科学, ²京大・医・21世紀COE)

16:25 W2H-3 3次構造を基に分子設計された細胞死抑制活性強化蛋白質FNKによる蛋白質導入治療

麻生 定光¹, 大澤 郁朗¹, 森 隆², 桂 研一郎³, 片山 泰朗³, 太田 成男¹(¹日本医大院・加齢科学・細胞生物, ²埼玉医大・総合医療セ, ³日本医大・第二内科)

16:55 W2H-4 モチーフ配列を埋め込んだ人工タンパク質による癌細胞死誘導経路のリプログラミング

齊藤 博英¹, 芝 清隆^{1,2}(¹癌研・蛋白創製, ²CREST, JST)

17:25 W2H-5 生体内ピンポイント遺伝子・薬剤デリバリーを可能にする中空バイオナノ粒子の可能性について

黒田 俊一^{1,2,3}, 山田 忠範^{1,4}, 多田 宏子⁵, 近藤 昭彦^{2,4}, 上田 政和^{2,6}, 妹尾 昌治^{2,5}, 谷澤 克行^{1,2,3}(¹大阪大・産研, ²(株)ピークル, ³科学技術振興機構, ⁴神戸大・工, ⁵岡山大・工, ⁶慶應大・医)

17:55 おわりに

近藤 科江(京大・院医)

..... W2I 応用分子生物学が拓く新しい地平
- 異分野との融合を基盤にした分子ツールの展開 -

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 I会場(ポートピアホテル 偕楽1)

世話人/座長: 植田 充美(京大院農・応用生命), 吉田 和哉(奈良先端大・バイオサイエンス)

15:15 はじめに

吉田 和哉(奈良先端大・バイオサイエンス)

15:18 W2I-1 ファージディスプレイ技術に基づくタンパク質工学の新展開

熊谷 泉(東北大・院工・バイオ)

15:43 W2I-2 コンビナトリアル・バイオエンジニアリングによる受容体リガンドの創出: 2次構造モチーフ・ペプチド・ライブラリー

藤井 郁雄(大阪府大・先端研)

16:08 W2I-3 ナノ・マイクロテクノロジーを用いたバイオツールの生物医学研究への応用

民谷 栄一(北陸先端大・材料科学)

16:33 W2I-4 SIMPLEX法による新規タンパク質の創製

中野 秀雄, 山根 恒夫(名大院・生命農)

16:58 W2I-5 遺伝暗号の拡張による非天然アミノ酸のタンパク質への部位特異的導入

芳坂 貴弘(北陸先端大・材料)

17:23 W2I-6 多彩な細胞表面ディスプレイシステムの開発

近藤 昭彦(神戸大・工・応化)

17:43 W2I-7 コンビナトリアルなタンパク質ライブラリーから創出される新しい機能タンパク質の世界

植田 充美(京大院農・応用生命)

17:58 終わりに

植田 充美(京大院農・応用生命)

..... W2J 相互作用のバイオインフォマティクス

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 J会場(ポートピアホテル 偕楽2)
世話人/座長: 五斗進(京大・化研), 堀本 勝久(東大・医科研)

- 15:15 はじめに
- 15:20 W2J-1 統計手法の組み合わせによる遺伝子制御関係の推定
堀本 勝久, 油谷 幸代(東大・医科研・ヒトゲノム)
- 15:50 W2J-2 マイクロアレイデータからの遺伝子ネットワークの推定
井元 清哉, 宮野 悟(東大・医科研・ヒトゲノム解析センター)
- 16:20 W2J-3 代謝パスウェイの発現プロファイルによる解析
馬見塚 拓(京大・化研)
- 16:50 W2J-4 線形計画法に基づくタンパク質間相互作用予測
林田 守広, 上田 展久, 阿久津 達也(京都大・化研)
- 17:20 W2J-5 カーネル法を用いた複数の異質なゲノムデータからのタンパク質ネットワークの推定
山西 芳裕¹, 佐藤 哲也¹, Vert Jean-Philippe², 大崎 元晴³, 村松 久司³, 三原 久明³, 江崎 信芳³, 檜作 好之¹, 五斗 進¹, 金久 實¹(¹京大・化研・バイオインフォマティクスセンター, ²Ecole des Mines de Paris, ³京大・化研)
- 17:50 総合討論

..... W2K 動物の行動を司る神経系の分子生物学

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 K会場(ポートピアホテル 偕楽3)
世話人/座長: 飯野 雄一(東大・遺伝子実験施設), 久保 健雄(東大・院理)

- 15:15 W2K-1 線虫 *C. elegans* における化学走性行動の可塑性の分子機構
富岡 征大, 池田 大祐, 國友 博文, 飯野 雄一(東大・遺伝子実験施設)
- 15:36 W2K-2 線虫 *C. elegans* においてMPK-1 MAP キナーゼは餌存在下でのNaClに対する感覚順応を調節する
江本 由香子, 大島 靖美, 石原 健, 古賀 誠人(九大・院理・生物科学)
- 15:54 W2K-3 ショウジョウバエ全聴覚感覚細胞の体系的な分類同定
上川内 あづさ^{1,2}, 伊藤 啓^{1,2}(¹東大・分生研・高次構造, ²科技機構・バイオインフォマティクス)
- 16:12 W2K-4 ショウジョウバエ Bax-like ファミリー蛋白質 Drob-1 の神経保護作用
松田 七美¹, 井垣 達吏², 三浦 正幸¹(¹東大・院薬・遺伝, ²エール大・医)
- 16:30 W2K-5 ミツバチ脳を用いた脳分子生物学の新しい局面
竹内 秀明(東大・院理・生物科学)
- 16:48 W2K-6 ナメクジ中枢神経系における神経活動依存的な最初期遺伝子の発現誘導
松尾 亮太, 福永 悟史, 星野 彰平, 桐野 豊(東大・薬・神経生物物理)
- 17:06 W2K-7 Songbird: a new animal model for vocal communication behavior
和多 和宏(デューク大学 医療センター 神経生物学部)
- 17:24 W2K-8 ENU 誘発突然変異による精神疾患モデルマウスの開発
和田 由美子¹, 古瀬 民生¹, 榎屋 啓志¹, 美野輪 治¹, 小林 喜美男¹, 金田 秀貴¹, 三浦 郁生¹, 串田 知子¹, 川合 暁子¹, 西井 瑠美¹, 渋谷 陽子¹, 権藤 洋一², 野田 哲生¹, 若菜 茂晴¹, 城石 俊彦¹(¹理研 GSC, 動物ゲノム, ²理研 GSC, 個体遺伝)
- 17:42 W2K-9 NMDA 受容体 NR2B サブユニットのリン酸化残基 (Tyr-1472) 改変マウスの解析
中澤 敬信¹, 駒井 章治², 城山 優治², 深谷 昌弘³, 渡部 文子², 手塚 徹¹, 岩倉 洋一郎⁴, 渡辺 雅彦³, 真鍋 俊也², 山本 雅¹(¹東大・医科研・癌細胞シグナル, ²東大・医科研・神経ネットワーク, ³北大院・医・解剖発生学, ⁴東大・医科研・人疾患モデル研究センター)

..... W2L Chemical Genetics : 化学を武器に分子生物学に挑む

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 L会場(ポートピアホテル 和楽)

世話人: 吉田 稔(理研・化学遺伝), 宮川 都吉(広大・先端物質科研) /

座 長: 吉田 稔(理研・化学遺伝), 半田 宏(東工大・生命理工),

萩原 正敏(東京医歯大・疾患生命科学), 宮川 都吉(広大・先端物質科学)

- 15:15 W2L-1 遺伝子発現と細胞分化のケミカルバイオロジー
上杉 志成(ペイラー医大・生化学)
- 15:35 W2L-2 創薬を目指したケムバイオへの新たなアプロ - チ - 薬剤固定化ナノビ - ズの構築と応用 -
半田 宏¹, 坪井 靖典², 倉森 見典¹, 宇賀 均² (¹東京工業大学大学院生命理工学研究科, ²株式会社アフニックス)
- 15:55 W2L-3 定量的プロテオーム解析, DNA マイクロアレイ解析, ならびにRNA 干渉法を統合的に活用すること
による薬剤標的分子と作用機序の探索
大和 隆志(エーザイ(株)・シーズ研究所)
- 16:15 W2L-4 Amphidinolide H の細胞内標的分子の同定
白井 健郎¹, 風見 紗弥香¹, 真下 良和², 近藤 久恵¹, 寺崎 朝子², 大橋 一世³, 小林 淳一⁴, 長田 裕之¹
(¹理研・長田抗生物質研, ²千葉大・院・自然科学, ³千葉大・理, ⁴北大・院・薬)
- 16:30 W2L-5 酵母の薬剤耐性変異を利用する薬剤標的分子の同定
宮川 都吉¹, 小林 義史¹, 長田 裕之², 水沼 正樹¹ (¹広島大学大学院先端物質科学研究科, ²理研・抗生物質)
- 16:50 W2L-6 メチルグリオキサールによる酵母転写因子Yap1 の新規な活性化機構
前田 和宏¹, 井沢 真吾¹, 岡崎 祥子², 久下 周佐², 井上 善晴¹ (¹京大院・農・応生科, ²東北大院・薬・生体防御)
- 17:05 W2L-7 タンパク質リン酸化酵素CK2 の特異的阻害剤TBB を用いた, ヒト体細胞型Wee1 (Wee1A) 分解の
分裂開始への役割の解明
渡辺 信元¹, 新井 晴美^{1,2}, 長田 裕之^{1,2} (¹理研・中央研・抗生物質, ²埼玉大・理工・分子生物)
- 17:20 W2L-8 異常スプライシングに起因する疾患の克服に向けて
萩原 正敏(東京医科歯科大学大学院疾患生命科学部形質発現制御学研究室)
- 17:40 W2L-9 スプライシング異常を引き起こす新しい細胞周期阻害/細胞死誘導物質の分子作用機構
吉田 稔^{1,2} (¹理研・中研・化学遺伝学, ²JST・CREST)

..... W2N 染色体複製装置と細胞分裂・細胞周期制御因子とのコミュニケーション

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 N会場(ポートピアホテル 大輪田A)
世話人/座長: 升方 久夫(阪大・院理), 白髭 克彦(東工大バイオセ, 理研・ゲノム科学総研セ)

- 15:15 W2N-1 Replication origins and regulation of initiation of chromosome replication in fission yeast
Makoto Hayashi¹, Yoshiki Yamada¹, Hayato Yabuuchi¹, Yuki Katoh², Takehiko Itoh³, Takuro Nakagawa¹, Katsuhiko Shirahige², Hisao Masukata¹ (¹Osaka Univ., Grad. Sch. of Sci., Dpt. Biol., ²Tokyo Inst. Technol., Gene Res. Cent., ³Mitsubishi Res. Inst. Inc.)
- 15:30 W2N-2 Meiotic origin firing program of *S.cerevisiae* chromosome VI
Saori Mori³, Yuki Katou^{1,2}, Hirokazu Tanaka¹, Katsuhiko Shirahige^{1,2} (¹Tokyo inst. tech., Fac. Sci., Dept. Biol., ²Riken GSC, ³Yokohama city univ, Integrate Sci.)
- 15:45 W2N-3 ショウジョウバエ ORC1 の細胞周期依存的な分解のメカニズムと意義
荒木 真理人^{1,2}, Robin Wharton P.^{1,3}, Zhanyun Tang⁴, Hongtao Yu⁴, 浅野 摩樹¹ (¹Dept. of Molecular Genetics and Microbiology, Duke Univ. Med, ²Uehara Memorial Foundation Postdoctoral Fellow, ³Howard Hughes Med. Inst., ⁴Dept. of Pharmacology, UTSW Med. Ctr.)
- 16:00 W2N-4 Control of DNA replication licensing factor Cdt1
Hideo Nishitani¹, Zoi Lygerou², Masafumi Saijo³, Yousuke Nakanishi¹, Takeharu Nishimoto¹ (¹Kyushu Univ. Grad.Sch.Med.Sci., ²Univ. of Patras, ³Osaka Univ.)
- 16:15 W2N-5 Formation of the pre-Landing Complex (pre-LC) regulated by CDK activity in budding yeast
Yoichiro Kamimura, Yon-Soo Tak, Kazuyuki Hirai, Sachiko Sakamoto, Hiroyuki Araki (Natl. Inst. Genet., SOKENDAI and CREST, JST.)
- 16:30 W2N-6 Multiple roles of GINS complex during cell cycle in vertebrate cells
Yumiko KUBOTA, Haruhiko TAKISAWA (Osaka Univ., Grad. Sch. of Sci., Dept. Biol.)
- 16:45 W2N-7 Roles of Cdc7 kinase in initiation and monitoring of DNA replication
Hisao Masai, Jung-Min Kim, Seiji Matsumoto, Naoko Sugata, Ai Ishii, Keiko Ogino, Masayuki Yamada, You Zhiying (Tokyo Met. Inst. Med. Sci., Dept. Cell Biol.)
- 17:00 W2N-8 DNA damage signaling in budding yeast
Katsunori Sugimoto (Dept. Cell Bio. & Mol. Med., UMDNJ-New Jersey Medical School, Newark, NJ 07103)
- 17:20 W2N-9 Degradation of Excess Histones by the Rad53 Protein Kinase
A. Gunjan, M. Abdul-Rauf, D. Lyon, Alain Verreault (Cancer Research UK, London Research Inst., Clare Hall Lab.)
- 17:40 W2N-10 Rad18 guides polymerase to replication stalling sites through physical interaction and PCNA monoubiquitination
Satoshi Tateishi, Kenji Watanabe, Masaru Yamaizumi (Kumamoto Univ., Inst. of Mol. Embryol. and Genet.)

..... W2O 染色体組換えの制御(その基礎と応用展開).....

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 O会場(ポートピアホテル 大輪田B)
世話人/座長: 太田 邦史(理研・遺伝ダイナミクス), 草野 好司(九州工大・院生命体工学)

- 15:15 W2O-1 組換えの制御: はじめに
太田 邦史^{1,2}, 柴田 武彦² (¹理研中央研・遺伝ダイナミクス, ²理研中央研・遺伝生化学)
- 15:20 W2O-2 Targeting of meiotic DNA double strand breaks in budding yeast
植松 哲生, 村上 創, VARELIE VORDE, MICHELE VEDEL, ALAIN NICOLAS (Institut Curie)
- 15:36 W2O-3 宿主の減数分裂期組換えを利用して伝播する可動性遺伝因子 VMA1 インテイン
福田 智行¹, 太田 邦史², 大矢 禎一¹ (¹東大・院新領域・先端生命, ²理研・遺伝ダイナミクス)
- 15:52 W2O-4 イネの遺伝子ターゲティング: 現状とT-DNAによる相同組換え
寺田 理枝, 定塚(久富) 恵世, 齊藤 美保, 飯田 滋(基礎生物学研究所)
- 16:08 W2O-5 BRCA2 欠損細胞における相同組換え能
山添 光芳¹, 酒井 恒¹, 畑中 敦詞¹, 米谷 泰一¹, 北尾 洋之², 高田 穰², 武田 俊一¹ (¹京大・医・放射線遺伝, ²川崎医科大学・免疫)
- 16:24 W2O-6 染色体組み換えにおけるファンconi貧血原因遺伝子 FANCD2 の解析
高田 穰, 松下 暢子, 平野 世紀, 北尾 洋之, 関 聡介, 大関 美緒子, 石合 正道(川崎医大・免疫)
- 16:40 W2O-7 抗体遺伝子座における相同組換えの活性化とその応用
瀬尾 秀宗^{1,2}, 升岡 美恵子^{1,2}, 武田 俊一³, 室伏 擴⁴, 柴田 武彦⁵, 太田 邦史¹ (¹理研・遺伝ダイナミクス, ²埼玉県中小企業振興公社/REDS, ³京大院医, ⁴山口大院理, ⁵理研・遺伝生化学)
- 16:56 W2O-8 1 分子実験系によって観察された DNA 二本鎖切断修復に関する DNA ヘリケース/ヌクレースの動き
半田 直史¹, Piero Bianco^{1,3}, Ronald Baskin², Stephen Kowalczykowski¹ (¹Division of Microbiology, University of California Davis, CA, ²Molecular and Cellular Biology, University of California Davis, CA, ³Center for Single Molecule Biophysics and Department of Microbiology, University at Buffalo, NY)
- 17:12 W2O-9 ゲノムの安定維持と相同組換えの制御
梅津 桂子, 安島 潤, 中磯 和敏, 吉田 純平, 真木 寿治(奈良先端大・バイオ)
- 17:28 W2O-10 ブルーム症候群遺伝子の発現制御に基づいた劣性遺伝子探索法
遊佐 宏介¹, 堀江 恭二¹, 竹田 潤二^{1,2} (¹阪大・医・社会環境医学, ²阪大・先端センター)
- 17:44 W2O-11 DNA ヘリカ - ゼによる組換え経路間の選択制御の可能性
草野 好司¹, 山名 良正¹, 迫山 優一¹, Engels William² (¹九州工大・院・生命体工学, ²Univ. Wisconsin-Madison, Dept. Genetics)

..... W2P 細胞はどのように DNA 損傷に応答するか

2004 年 12 月 9 日 (木) 15:15 ~ 18:00 P 会場 (ポートピアホテル 大輪田 C)
世話人 / 座 長: 花岡 文雄 (阪大・院生命機能, 理研), 益谷 美都子 (国立がんセンター研)

15:15 はじめに

花岡 文雄 (阪大・院生命機能, 理研)

15:18 W2P-1 The role of SMC1 in DNA damage induced signaling pathways.

Risa Kitagawa¹, Christopher J. Bakkenist¹, Peter J. McKinnon², Michael B. Kastan¹ (¹Dept. of Hematology-Oncology, St. Jude Children's Research Hospital, ²Dept. of Genetics and Tumor Cell Biol., St. Jude Children's Research Hospital)

15:39 W2P-2 相同組換えを制御する NBS1 タンパクにおける機能ドメイン解析

飯島 健太¹, 坂本 修一², 小林 純也³, 松浦 伸也⁴, 小松 賢志², 田内 広¹ (¹茨城大・理・地球生命, ²京大・放生研・ゲノム, ³広島大・院・医歯薬, ⁴広島大・原医研・ゲノム)

15:51 W2P-3 G1 期に機能する 53BP1 依存性の新規 DNA 二重鎖切断修復経路

岩淵 邦芳¹, 橋本 光正¹, 松井 理¹, 栗原 孝行², 清水 弘子³, 足立 典隆⁴, 山本 健一³, 田内 広⁵, 小山 秀機⁴, 伊達 孝保¹ (¹金沢医大・医・ゲノム医科学, ²金沢医大・医・総医研, ³金沢大・癌研・細胞分子病態, ⁴横浜市大・木原研, ⁵茨城大・理・地球環境)

16:03 W2P-4 DNA 修復における TIP60 ヒストンアセチル化酵素複合体とヒストン H2AX のダイナミクス

井倉 毅¹, 田代 聡², 倉岡 功³, 神谷 研二¹ (¹広島大・原医研, ²広島大院・医歯薬総合・医化学, ³大阪大・院生命機能)

16:24 W2P-5 Cell cycle-dependent acetylation of histone H3 lysine 56 contributes to DNA double strand break repair in *Saccharomyces cerevisiae*

Hiroshi Masumoto¹, David Hawke², Ryuji Kobayashi², Alain Verreault¹ (¹CRUK, London Inst. Clare Hall, UK, ²Univ. of Texas, M.D. Anderson Cancer Center, USA)

16:36 W2P-6 活性酸素による DNA 損傷応答の *in situ* 解析

安井 明, 蘭 利, 中嶋 敏 (東北大学加齢医学研究所)

16:57 W2P-7 DNA 損傷応答における polyADP-ribosylation 反応の役割

益谷 美都子¹, 柴田 淳史¹, 郡司 明美¹, 吉田 智子¹, 鎌田 宣夫², 能美 健彦³, 鈴木 宏志⁴, 中釜 育¹, 杉村 隆¹ (¹国立がんセ・研・生化, ²(株)中外医科学研, ³国立医衛研・変異遺伝, ⁴帯畜大・原虫セ)

17:18 W2P-8 ヌクレオチド除去修復に関わる損傷認識因子の機能的相互作用

菅澤 薫^{1,2}, 奥田 友紀^{1,3}, 西條 将文^{2,4}, 西 良太郎^{1,2,3}, 松田 憲之⁵, 田中 啓二⁵, 田中 亀代次^{2,4}, 花岡 文雄^{1,2,4} (¹理研・細胞生理, ²科学技術振興機構・CREST, ³阪大院・薬, ⁴阪大院・生命機能, ⁵都臨床研・分子腫瘍)

17:39 W2P-9 コピキチンリガーゼ活性をもつ A 群コケイン症候群 (CSA) 蛋白質複合体の解析

西條 将文^{1,2}, 田中 亀代次^{1,2} (¹阪大・院生命機能, ²科技団・CREST)

..... W2Q 発生現象と細胞増殖制御：.....
配偶子形成から形態形成，細胞分化，個体の大きさの調節まで

2004年12月9日（木） 15:15～18:00 Q会場（神戸商工会議所会館 神商ホール）
世話人／座 長：竹内 隆（三菱化学生命科学研），岸本 健雄（東工大・院生命理工）

- 15:15 W2Q-1 受精によるS期開始制御
岸本 健雄, 立花 和則（東工大・院生命理工・生命情報）
- 15:35 W2Q-2 ツメガエル中期胚遷移（MBT）のチェックポイント制御
佐方 功幸（九大・理・生物）
- 15:55 W2Q-3 発生及び幹細胞制御における細胞周期制御の新しい側面
瀧原 義宏, 大坪 素秋, 安永 晋一郎, 宮地・島迫 里佳（広大・原医研・幹細胞機能学）
- 16:15 W2Q-4 ショウジョウバエ神経幹細胞の紡錘体方向の制御機構
泉 裕士¹, 太田 奈緒¹, 松崎 文雄^{1,2}（¹理研・CDB, ²CREST, JST）
- 16:35 W2Q-5 Wnt シグナルによる神経系前駆細胞の運命制御
平林 祐介, 伊藤 靖浩, 増山 典久, 後藤 由季子（東大・分生研・情報伝達）
- 16:55 W2Q-6 ゼブラフィッシュ網膜における細胞増殖から分化へのスイッチ機構
政井 一郎（理研，政井独立主幹）
- 17:15 W2Q-7 心筋細胞の増殖と分化の制御
竹内 隆（三菱化学生命科学研究所）
- 17:35 W2Q-8 遺伝子改変マウスを用いたDNA含量と細胞サイズについての解析
中山 啓子¹, 神武 洋二郎², 石田 典子¹, 三宅 智¹, 中山 敬一²（¹東北大学大学院医学系研究科, ²九州大学生体防御医学研究所）
- 17:55 終わりに
岸本 健雄（東工大・院生命理工），竹内 隆（三菱化学生命科学研）

..... W2R 特殊・極限環境中の遺伝子資源の探索とその応用

2004年12月9日(木) 15:15 ~ 18:00 R会場(神戸商工会議所会館 会議室 1/2/3)
世話人/座長: 山岸 明彦(東薬大・生命科学), 河原林 裕(産総研・生物機能)
大島 敏久(徳島大・工・生物工)

15:15 はじめに

河原林 裕(産総研・生物機能)

15:18 W2R-1 好冷好圧性微生物全ゲノム解析から見えてくるもの

仲宗根 薫(近畿大・工・生物化学工)

15:36 W2R-2 超好熱ア - キアの色素依存性脱水素酵素の探索とその応用

大島 敏久¹, 川上 竜巳¹, 櫻庭 春彦¹, 津下 英明²(¹徳島大・工・生物工, ²徳島文理大・健康科学研)

15:54 W2R-3 極限環境遺伝子の探索と利用の可能性

佐々木 真弓^{1,2}, 辻村 昌也^{1,2}, 河原林 裕¹(¹独・産総研, ²プレシジョン・システム・サイエンス)

16:12 W2R-4 遺伝子資源を利用した新規タンパク質の創製

石野 良純(九大院・農, 遺伝子資源工学)

16:30 W2R-5 メタゲノムファージディスプレイライブラリーからの効率的な酵素遺伝子クローニング法の検討

Masaji Okamoto, Kenichi Tanaka (Toagosei Co., Ltd.)

16:45 W2R-6 好熱菌由来タンパク質の結晶構造と耐熱性

田之倉 優(東大院・農生科・応生化)

17:03 W2R-7 超好熱性古細菌由来プレフォルディンと2型シャペロニンによるタンパク質フォールディング機構

養王田 正文, 吉田 尊雄, 飯塚 怜, 座古 保(東京農工大学・院・工)

17:21 W2R-8 古細菌脂質の特徴と耐熱性についての考察

Yosuke Koga (産業医大・医・生体物質化学)

17:39 W2R-9 好熱菌酵素の低温適応機構

山岸 明彦(東薬大・生命科学・分子生命)

17:57 まとめ

山岸 明彦(東薬大・生命科学)

..... W3A エピジェネティクス制御のヒエラルキー

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 A会場(神戸国際展示場 2A会議室)
世話人/座長: 塩田 邦郎(東大・院農生命), 東中川 徹(早大・教育)

15:15 はじめに

塩田 邦郎(東大・院農生命)

15:20 W3A-1 DNAメチル化模様伝達の忠実度の正常細胞での測定とがんでの低下

牛島 俊和, 渡邊 直子(国立がんセンター・研・発がん)

15:45 W3A-2 Genome hypomethylation and activation of MAGE genes in tumor cells

Charles DeSmet, Axelle Lorient, Thierry Boon (Ludwig Institute for Cancer Research, Universite Catholique de Louvain)

16:10 W3A-3 DNAメチル化とヒストン修飾によるエピジェネティクス記憶の相互依存

服部 中(東大院・農生科)

16:35 W3A-4 ヒストンメチル化修飾の制御機構

眞貝 洋一(京大・ウイ研)

17:00 W3A-5 ほ乳類ポリコーン群複合体の機能発現機序

古関 明彦(理研 免疫・アレルギー研 免疫器官形成グループ)

17:25 W3A-6 Differentiation-Induced Replication Timing Changes

Ichiro Hiratani, Amanda Leskova, Tomoki Yokochi, David M. Gilbert (Dept. Biochem. Mol. Biol., S.U.N.Y. Upstate Med. Univ.)

17:50 総合討論および終わりに

東中川 徹(早大・教育)

..... W3B メカノバイオロジーにおける分子細胞生物学的展開の最先端

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 B会場(神戸国際展示場 3A会議室)
世話人: 野田 政樹(東京医歯大・難治疾患研), 武田 伸一(国立精神・神経センター) /
座長: 浅島 誠(東大・院総合文化), 曾我部 正博(名大・院医)

15:15 W3B-1 Advances in Mechano-Biology

野田 政樹(東京医歯科大学難治疾患研究所)

15:30 W3B-2 微小重力による筋萎縮の分子メカニズム

武田伸一, 鈴木友子, 増田 智, 深田 宗一郎, 鈴木直樹, 望月靖史, 上住聡芳(国立精神・神経センター 神経研究所 遺伝子疾患治療研究部)

15:45 W3B-3 細胞メカノトランスダクションの多様性: SAチャンネル, 細胞骨格, 接着分子

曾我部 正博^{1,2,3}, 辰巳 仁史¹, 早川 公英², 河上 敬介⁴, 宮津 真寿美⁴ (¹名大院・医・細胞生物物理, ²科技振・国際共同・細胞力覚, ³生理研・分子生理, ⁴名大・医・保健)

16:00 W3B-4 Unloading による筋・骨萎縮におけるユビキチン・システムの重要性ユビキチンリガーゼの結合蛋白質の解析を中心に

二川 健¹, 平坂 勝也¹, 久田 記美子¹, 後藤 淳平¹, 不老 治美¹, 大西 ゆう子¹, 岸 恭一¹, 小川 貴之², 鈴江 直人², 安井 夏生², 石堂 一巳³, 埜中 征哉⁴, 武田 伸一⁴ (¹徳島大・医・栄養生理, ²徳島大・医・整形外科, ³徳島文理大・健康科学研, ⁴国立精神・神経センター)

16:15 W3B-5 筋原線維のメカノシグナル伝達複合体としてのコネクチン/タイチンとMURFsの機能解析

反町 洋之^{1,2}, 小山 傑^{1,3}, 秦 勝志¹, 千葉 智樹⁴, 小野 弥子¹, 尾嶋 孝一^{1,2}, Christian Witt⁵, 武田 伸一⁶, Labeit Siegfried⁵, 阿部 啓子³ (¹都臨床研・酵素機能, ²科技団・CREST, ³東大・院農生科, ⁴都臨床研・先端, ⁵Mannheim Univ.klinik., Inst. Anästhesiol. Operat. Int.med., ⁶国立精神・神経センター・神経研・遺伝子疾患)

- 16:30 W3B-6 クリノスタットローテーションによるツメガエル A6 細胞の遺伝子発現の変化
福井 彰雅¹, 北本 淳子¹, 浅島 誠^{1,2} (¹東大・院・総文・生命, ²ICORP・科技機構)
- 16:45 W3B-7 マウス胚性幹 (ES) 細胞由来の血管内皮細胞における TGF- β シグナルの役割
渡部 徹郎¹, 三嶋 弘一¹, 山本 希美子², 西原 順子³, 新田 武弘⁴, 古瀬 幹夫⁴, 月田 承一郎⁴, 安藤 譲二²,
宮園 浩平^{1,5} (¹東大・院医・分子病理, ²東大・院医・医用生体工学, ³東大・分生研・細胞情報, ⁴京
大・医・分子細胞情報, ⁵癌研・生化)
- 17:00 W3B-8 ビタミン D の骨芽細胞への直接作用の分子機構
山本 陽子¹, 吉澤 達也², 福田 亨¹, 加藤 茂明^{1,3} (¹東大・分生研・核内情報, ²新潟大院・医歯, ³科学
技術振興機構・SORST)
- 17:15 W3B-9 力学的負荷による骨形成促進シグナルに関わる転写因子群の機能解析
木戸 慎介¹, 井上 大輔¹, 今村 健志², 宮園 浩平³, 谷口 寿章⁴, 松本 俊夫¹ (¹徳島大・大学院・生体
情報内科学, ²癌研・生化学部, ³東京大・医科研・分子病理, ⁴徳島大・酵素センター・酵素生理)
- 17:25 W3B-10 骨格筋における FOXO1 の発現増加は, 筋量 (赤筋) の減少をひき起こす。
亀井 康富^{1,2}, 三浦 進司², 江崎 治² (¹(独) 科学技術振興機構, さきがけ, ²(独) 国立健康・栄養
研究所)
- 17:35 W3B-11 大脳皮質前駆細胞は放射状に受動的伸長されている
宮田 卓樹^{1,2,3} (¹名大・院医・細胞生物, ²理研・脳セ・細胞培養, ³科学技術振興機構)
- 17:45 W3B-12 反応拡散系骨リモデリングモデル「iBone」によるヒト下顎骨形態シミュレーション
手塚 建一¹, 武田 知子², 高橋 昭如³, 和田 義孝³, 柴田 敏之², 菊池 正紀³ (¹岐阜大・院医・組織器
官形成, ²岐阜大・医・口腔病態, ³東京理科大・理工・機械)

..... W3C 神経活動依存性転写・翻訳制御

2004 年 12 月 10 日 (金) 15:15 ~ 18:00 C 会場 (神戸国際会議場 メインホール)
世話人 / 座 長 : 尾藤 晴彦 (東大・院医), 上田 泰己 (理研 CDB)

15:15 はじめに

Haruhiko Bito (Univ. of Tokyo Grad. Sch. of Med.)

- 15:20 W3C-1 Biophysical and biochemical model of bidirectional long-term synaptic plasticity
Shinya Kuroda^{1,2}, Hidetoshi Urakubo² (¹Univ. Tokyo., Fac. Info Sci., Bioinformatics., ²PRESTO)
- 15:45 W3C-2 mTOR-mediated translational activation during the learning paradigm
Nobuyuki Takei¹, Naoko Inamura¹, Sihua Qi¹, Makoto Mizuno¹, Hisaaki Namba¹, Kenta Hara^{3,4},
Kazuyoshi Yonezawa^{2,3}, Hiroyuki Nawa¹ (¹Niigata Univ., Brain Res. Inst., ²Kobe Univ., Biosignal Res.
Center, ³CREST, ⁴Kobe Univ. School Medicine)
- 16:10 W3C-3 Arc: an activity-regulated neuronal protein interacting with PSD proteins in the dendritic spines in
hippocampal neurons
Hiroyuki Okuno (Univ. of Tokyo Grad. Sch. of Med.)
- 16:35 W3C-4 Modeling synaptic turnover and stability
Upinder S Bhalla (National Centre for Biol. Sci., India)
- 17:05 W3C-5 Regulation of memory consolidation by CREB signaling pathway
Satoshi Kida (Tokyo Univ. Agricul., Dept. Biosci.)
- 17:30 W3C-6 Systems Biology on Mammalian Circadian Clocks
Hiroki Ueda (RIKEN CDB)

17:55 おわりに

Hiroki Ueda (RIKEN CDB)

..... W3D 染色体ダイナミクスとゲノム維持

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 D会場(神戸国際会議場 国際会議室)
世話人/座長: 胡桃坂 仁志(早大・理工), 小林 武彦(基生研・形質統御実験施設)

- 15:15 はじめに
小林 武彦(基生研・形質統御実験施設), 胡桃坂 仁志(早大・理工)
- 15:20 W3D-1 ヒト相同組換えタンパク質の構造・機能解析
胡桃坂 仁志^{1,2}, 杵渕 隆², 香川 亘², 榎本 りま², 柴田 武彦³, 横山 茂之^{2,4,5}(¹早稲田大・理工, ²理研・ゲノムセンター, ³理研・遺伝生化学, ⁴理研・播磨研究所, ⁵東大・院理)
- 15:38 W3D-2 植物オルガネラで機能する RecA 相同タンパク質の機能解析
関根 靖彦(立教大・理・生命理学)
- 15:56 W3D-3 ヌクレオソームポジショニングの機能解析
清水 光弘(明星大・理工・化学)
- 16:14 W3D-4 インシュレーター: 独立した転写ユニットを形成させるシス配列
石原 悟, Gary Felsenfeld(米国衛生研究所)
- 16:32 W3D-5 リボソーム RNA 遺伝子の安定化機構 - クラス III 遺伝子の extra-coding な役割 -
小林 武彦(基生研)
- 16:50 W3D-6 コンデンシンの M 期特異的な染色体結合の制御
木村 圭志¹, 竹本 愛^{1,2}, 花岡 文雄^{1,3,4}(¹理研・細胞生理, ²東大院・理・生化, ³阪大院・生命機能, ⁴科技団, CREST)
- 17:08 W3D-7 ゲノム安定性を保障するセントロメアの機能構築
深川 竜郎^{1,2,3}, 堀 哲也^{1,3}, 野上 正弘^{1,3}, 三上 剛和¹, 岡田 聖裕^{1,2}(¹国立遺伝研, ²総研大, ³JST さきがけ)
- 17:26 W3D-8 動物細胞における染色体維持機構の解析
園田 英一朗¹, 趙 光宇¹, 香崎 正宙¹, 高見 恭成², 武田 俊一¹(¹京都大・医・放射線遺伝, ²宮崎医大・生化学)
- 17:44 終わりに
胡桃坂 仁志(早大・理工)・小林 武彦(基生研・形質統御実験施設)

..... W3E タンパク質の多様性獲得戦略

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 E会場(神戸国際会議場 401/402)
世話人/座長: 加藤 晃一(名市大・院薬), 郷 通子(長浜バイオ大・バイオサイエンス)

- 15:15 W3E-1 タンパク質多様性への構造生物学的アプローチ
加藤 晃一(名市大・院薬・生命分子構造学)
- 15:23 W3E-2 抗体の抗原認識能の多様性獲得の分子機構
林 宣宏¹, 下條 尚志², 勝見 治恵³, 黒澤 良和¹(¹藤田保衛大・総医研, ²藤田保衛大・衛生, ³抗体研)
- 15:43 W3E-3 マウス及びヒト Patched 遺伝子の選択的スプライシングにより生じるアイソフォームの解析
長尾 和右¹, 豊田 雅士¹, 井上 佳織¹, 藤井 克則², 宮下 俊之¹, 山田 正夫¹(¹国立成育医療研・遺伝, ²千葉大・医・小児病態)
- 15:55 W3E-4 選択的スプライシングがタンパク質立体構造に与える多様性
由良 敬¹, 塩生 真史², 土方 敦司³, 中原 拓³, 篠田 和紀³, 山口 晶大⁴, 高橋 健一⁴, 郷 通子⁴(¹原研・量子生命, ²横浜市大・超分子, ³名大・院理, ⁴長浜バイオ・バイオサイエンス)
- 16:15 W3E-5 植物遺伝子の生成と発現レベルでの多様性獲得機構
小保方 潤一(名古屋大・遺伝子実験施設)

- 16:35 W3E-6 出芽酵母 Arp1p の細胞壁合成チェックポイントと核移行制御の多機能性獲得戦略
湯川 格史^{1,2}, 五十嵐 亮二¹, 関谷 瑞穂¹, 今成 深雪¹, 大矢 禎一^{1,2} (¹東大・院新領域・先端生命,
²JST・BIRD)
- 16:50 W3E-7 プロテオリシスによる膜タンパク質の機能多様性獲得の機構解析
荒木 陽一, 水丸 智絵, 住岡 暁夫, 佐久間 めぐみ, 大森 克哉, 斉藤 有紀, 河野 高德, 中矢 正, 鈴木 利
治 (北大・院薬・神経科学)
- 17:05 W3E-8 The roles of ubiquitin family
Tomoki Chiba (Tokyo Met. Inst. of Med. Sci., Lab. of Frontier Science)
- 17:25 W3E-9 E4B による FEZ1 のポリユビキチン化は神経突起形成に必要である
奥村 文彦^{1,3}, 畠山 鎮次², 松本 雅記^{1,3}, 嘉村 巧^{1,3}, 中山 敬一^{1,3} (¹九大・生医研・分子発現制御, ²北
大・院医・分子医化学, ³JST・戦略的創造研究推進事業)
- 17:37 W3E-10 糖鎖認識・糖鎖修飾による新たなタンパク質の機能
古川 清 (都老人研・増殖分化制御)
- 17:57 総括
郷 通子 (長浜バイオ大・バイオサイエンス)

..... W3F オルガネラ膜構造のダイナミクスと形態制御

2004 年 12 月 10 日 (金) 15:15 ~ 18:00 F 会場 (神戸国際会議場 501)
世話人 / 座長 : 石原 直忠 (九大・院医), 藤木 幸夫 (九大・院理), 鈴木 邦律 (基生研・分子細胞生物)

- 15:15 W3F-1 Peroxisome Membrane Biogenesis, Matrix Protein Import, and Morphogenesis
Yukio Fujiki^{1,2} (¹Dept. Biol., Fac. Sci., Kyushu Univ., ²SORST, JST)
- 15:34 W3F-2 Structural basis of mitochondrial tethering by mitofusin complexes
Takumi Koshiba, Chan David (Div of Biol., Caltech)
- 15:49 W3F-3 哺乳動物ミトコンドリアの形態調節機構
石原 直忠, 江浦 由佳, 城福 章裕, 藤田 優, 田口 奈緒子, 三原 勝芳 (九大・医院・分子生命)
- 16:08 W3F-4 ミトコンドリアと葉緑体に共通するオルガネラ分裂機構
西田 敬二^{1,3}, 宮城島 進也^{1,2}, 黒岩 常祥¹ (¹立教大・理・生命, ²ミシガン州大・植物, ³東京大・
院・理・生物)
- 16:27 W3F-5 Nuclear envelope formation: The cross talk between the pore and the membrane
Wolfram Antonin, Iain Mattaj (EMBL)
- 16:52 W3F-6 GRASP65 のリン酸化とその機能
中村 暢宏^{1,3}, 吉村 信一郎^{1,2}, 大熊 勝治³ (¹金沢大・院・自然科学・細胞生物, ²日本学術振興会・
特別研究員, ³金沢大・院・自然科学・生命機能発現)
- 17:11 W3F-7 オートファゴソーム形成に必須な Atg (autophagy-related) タンパク質の局在解析
鈴木 邦律, 久保田 有香, 大隅 良典 (基生研・分子細胞生物)
- 17:30 W3F-8 Roles of phosphoinositides in peroxisome degradation of *Pichia pastoris*
Masahide Oku, Yoshitaka Ano, Shun-ichi Yamashita, Nobuo Kato, Yasuyoshi Sakai (Kyoto Univ.,
Grad. School of Agriculture, Div. of Applied Life Sciences)
- 17:45 W3F-9 膜輸送分子 protrudin による神経突起形成の分子機構
白根 道子^{1,2,3}, 中山 敬一^{1,2} (¹九大・生医研・分子発現制御学, ²CREST, ³さががけ)

..... W3G メタボローム研究の新展開.....

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 G会場(神戸国際会議場 502)
世話人/座長: 曾我 朋義(慶應大・先端生命科研), 富田 勝(慶應大・先端生命科研), 西岡 孝明(京大・院農)

- 15:15 W3G-1 **メタボローム解析の最新技術とその応用**
曾我 朋義^{1,2}(¹慶大・先端生命研,²ヒューマン・メタボローム)
- 15:45 W3G-2 **細胞内全代謝物質の同定をめざしたESI-CID-MSデータベースの構築**
西岡 孝明^{1,2}, 嘉数 勇二², 曾我 朋義², 富田 勝²(¹京大・院・農,²慶大・先端生命研)
- 16:00 W3G-3 **メタボローム解析法による赤血球の新しい生理作用の探索**
末松 誠(慶應大・医・医化学)
- 16:30 W3G-4 **植物におけるメタボロミクスを用いた機能ゲノミクス**
斉藤 和季(千葉大・院薬)
- 17:00 W3G-5 **お気楽マップエディタによる代謝解析**
有田 正規^{1,2,3}(¹東大・新領域・情報生命,²慶大・先端生命研,³産総研・CBRC)
- 17:30 W3G-6 **マウス網膜形成時のリン脂質分子種の変動を対象とした脂質メタボロミクス**
田口 良¹, 中西 広樹¹, 佐藤 智², 清水 孝雄¹(¹東大・院・医,²京大・院・理)
- 17:45 W3G-7 **均一安定同位体標識化高等植物の多次元NMRメタボロミクス**
菊地 淳^{1,2}, 篠崎 一雄^{3,4}, 平山 隆志^{2,3,4}(¹理研GSC・タンパクGr.,²横市院・総合理学,³理研GSC・植物Gr.,⁴理研・植物分子)

..... W3H DNA複製フォーク進行阻害の回避・回復の分子機構.....

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 H会場(神戸国際会議場 503/504/505)
世話人/座長: 真木 寿治(奈良先端大・バイオサイエンス), 石野 良純(九大・院農)

- 15:15 **はじめに**
真木 寿治(奈良先端大・バイオサイエンス)
- 15:30 W3H-1 **複製フォーク進行阻害回避における損傷乗り越えDNAポリメラーゼの役割: *oriC* プラスミド *in vitro* DNA複製系を用いた解析**
古郡 麻子¹, 樋口 久美子¹, 片山 勉², 日高 真純³, 堀内 嵩³, 岩井 成憲⁴, 真木 寿治¹(¹奈良先端大・バイオ,²九大院・薬,³基生研,⁴阪大院・工)
- 15:45 W3H-2 **DNA 3'末端特異的結合ヘリカーゼによる停止複製フォーク安定化機構**
田中 卓, 正井 久雄(東京都臨床研・細胞生物)
- 16:00 W3H-3 **DNA複製フォーク進行とその修復因子; アーキア研究の現状と展望**
藤兼 亮輔^{1,2}, 小森 加代子³, 大山 拓次³, 西野 達哉³, 森川 耿右³, 品川 日出夫², 石野 良純¹(¹九大院・遺子工,²阪大・微研,³生物分子工研)
- 16:15 W3H-4 **FボックスDNAヘリカーゼは組換え中間体の解消に関与する**
森下 卓, 古川 史子, 品川 日出夫(阪大・微研)
- 16:30 W3H-5 **Ku蛋白質のS期におけるゲノム維持機構の解析**
三好 知一郎, 加納 純子, 石川 冬木(京大院・生命科学)
- 16:45 W3H-6 **The Rad18/Rad5/Mms2-mediated poly-ubiquitination of PCNA is implicated in replication completion during replication stress**
Dana Branzel¹, Masayuki Seki², Kunihiro Ohta¹, Takemi Enomoto²(¹Riken Institute, Genetic Dynamics Research Unit-Laboratory,²Tohoku Univ., Grad. Sch. Pharm. Sci.)
- 17:00 W3H-7 **アフリカツメガエル卵 *in vitro* DNA複製系を用いた Werner ヘリカーゼの機能解析**
和賀 祥(阪大・院生命機能・細胞ネットワーク)

- 17:15 W3H-8 ヒトDNAポリメラーゼの新しい制御因子, WRNヘリカーゼ結合タンパク質(WRNIP1)
釣本 敏樹¹, 篠崎 彩子², 矢野 雅樹², 関 政幸³, 榎本 武美³ (¹九大・理学・生物科学, ²奈良先端大・バイオ, ³東北大・薬学・遺伝子薬学)
- 17:30 W3H-9 停止複製フォーク再開におけるファンconi貧血とブルーム症候群のクロストーク
平野 世紀¹, 山本 和彦¹, 石合 正道¹, 山添 光芳³, 関 政幸², 松下 暢子¹, 大関 美緒子¹, 武田 俊一³, 榎本 武美², 高田 穂¹ (¹川崎医大・免疫, ²東北大院・薬・遺伝子, ³京大・医・放射線遺伝)
- 17:45 W3H-10 遺伝子増幅機構の理解のために有用な新しい出芽酵母遺伝子増幅系の開発
渡邊 孝明¹, 堀内 嵩² (¹総研大・生命科学, ²基生研)

..... W3I 神経細胞における分子局在と極性形成機構

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 I会場(ポートピアホテル 階1)
世話人/座 長: 見学 美根子(理研, 脳科学総研セ), 根岸 学(京大・院生命科学)

15:15 はじめに

見学 美根子(理研, 脳科学総研セ)

15:20 W3I-1 神経細胞の極性形成機構

貝淵 弘三(名古屋大・医・薬理)

15:50 W3I-2 The Role of Ankyrins in Neurite Growth and Polarization

Kazunari Nishimura, Hiroyuki Kamiguchi (RIKEN Brain Sci Inst, Neuronal Growth Mechanisms Lab)

16:20 W3I-3 神経軸索ガイダンス分子, セマフォリンの新しい情報伝達機構

根岸 学, 生沼 泉, 石川 幸雄, 加藤 裕教(京都大学大学院生命科学研究科)

16:50 W3I-4 神経ガイダンス分子による樹状突起・スパイン形成機構

五嶋 良郎(横浜市立大・医・分子薬理神経生物)

17:20 W3I-5 DNER/Notch シグナルによるパーグマングリア細胞の形態制御機構

永楽 元次^{1,2,3}, 東郷 暁⁴, 竹島 浩⁴, 平野 丈夫², 見学 美根子^{1,3} (¹神戸大・理・生物, ²京大・理・生物物理, ³CREST, ⁴東北大・医・医化)

17:50 総合討論

根岸 学(京大・院生命科学)

..... W3J 植物免疫の分子機構

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 J会場(ポートピアホテル 偕楽2)
世話人/座長: 島本 功(奈良先端大・バイオサイエンス), 渡辺 雄一郎(東大・院総文)

- 15:15 W3J-1 Plant disease resistance: insights from global expression profiling
Fumiaki Katagiri (Dept. of Plant Biol., Univ. of Minnesota, Cntr. for Microbial and Plant Genomics)
- 15:35 W3J-2 トバモウイルスとシロイヌナズナ microRNA 生合成経路
栗原 志夫, 渡辺 雄一郎(東大・総合文化)
- 15:55 W3J-3 植物 RNA ウイルスの新規な RNA サイレンシング抑制機構
佃 美紗都, 竹田 篤史, 水本 祐之, 海道 真典, 三瀬 和之, 奥野 哲郎(京都大・農・応用生物)
- 16:10 W3J-4 イネ原形質膜上にあるキチンオリゴ糖エリシター受容体
賀来 華江¹, 伊藤 ゆき¹, 西澤 洋子², 堂前 直³, 瀧尾 擴士⁴, 石井 - 南 尚子¹, 南 栄一¹, 渋谷 直人^{1,5}
(¹(独)生物研・糖鎖, ²(独)生物研・遺伝子設計研, ³理研・中央研, ⁴理研・播磨研, ⁵明治大・農学)
- 16:30 W3J-5 Molecular dissection of AtRAR1 and AtSGT1b function in plant R gene-mediated defence
Shigeyuki Betsuyaku¹, Laurent D. Noel², Giuseppe Cagna¹, Paul R. Muskett¹, Jane E. Parker¹
(¹Max-Planck-Institute for Plant Breeding Research, Department of Plant-Microbe interactions, ²Laboratoire de Biologie du Developpement des plantes, UMR CNRS-CEA-Universite mediterrannee)
- 16:45 W3J-6 イネにおける G タンパク質を介した抵抗性シグナル伝達
川崎 努¹, 藤原 正幸¹, 中島 綾子¹, Wong Hann Ling¹, Thao Nguyen Phoung¹, Chen Letian¹, 富樫 貴¹,
小坂 久子¹, 小松 毅史¹, 三橋 正憲¹, 梅村 賢司², 島本 功¹(¹奈良先端大・バイオ, ²明治製菓)
- 17:05 W3J-7 TMV 感染タバコにおける病傷害抵抗性獲得の情報伝達
大橋 祐子(農業生物資源研究所)
- 17:25 W3J-8 タバコにおける液胞プロセシング酵素が制御する過敏感細胞死の分子機構
初谷 紀幸^{1,2}, 黒柳 美和^{1,2}, 山田 健志¹, 飯 哲夫³, 津田 新哉⁴, 近藤 真紀¹, 西村 いくこ², 西村 幹夫¹
(¹基生研・細胞生物, ²京大院・理, ³農業生物資源研, ⁴中央農研)
- 17:40 W3J-9 感染植物におけるオキシダティブーストの分子機構とその防御応答統御
道家 紀志, 吉岡 博文, 山溝 千尋, 山下 真生, 川北 一人(名大・院・生農)

..... W3K 植物形態形成の分子機構研究の進展

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 K会場(ポートピアホテル 偕楽3)
世話人/座長: 和田 拓治(理研・植物セ), 青山 卓史(京大・化研)

15:15 はじめに

15:20 W3K-1 表層微小管による細胞伸長方向の制御

橋本 隆(奈良先端大・バイオ)

15:45 W3K-2 シロイヌナズナの根毛細胞分化制御因子の解析

和田 拓治¹, 倉田 哲也¹, 佐野 亮輔¹, 富永 るみ¹, 石田 哲也¹, 岡田 清孝^{1,2} (¹理研・植物センター, ²京大・院理)

16:10 W3K-3 アラビドプシスの TFL1, FT タンパク質の細胞間移行は, それぞれ花序茎頂の維持, 花成に必須である。

後藤 弘爾¹, 高橋 恵美¹, 中山 明^{1,2} (¹岡山県生科研, ²CREST, 科技機構)

16:25 W3K-4 Multiple phytohormones clock up the circadian rhythms in *Arabidopsis thaliana*

Shigeru Hanano¹, Malgorzata Domagalska¹, Claudia Birkemeyer², Joachim Kopka², Seth Davis¹
(¹Max-Planck Institute for Plant Breeding Research, ²Max-Planck Institute of Plant Physiology)

16:40 W3K-5 ジベレリンシグナル伝達における核内転写因子の機能と制御

辻 寛之, 上口(田中) 美弥子, 芦苅 基行, 北野 英己, 松岡 信(名古屋大学生物機能開発利用研究センター)

17:05 W3K-6 植物細胞形態形成におけるフォスホリパーゼDの役割

山本 幸美, 大橋 洋平, 岡 穆宏, 青山 卓史(京大・化研)

17:30 W3K-7 FILAMENTOUS FLOWER 遺伝子を用いた向背軸形成機構の解析

渡辺 恵郎, 舟木 俊治, 岡田 清孝(京大, 理, 植物)

17:45 W3K-8 シロイヌナズナの道管形成を制御する転写因子 VND 遺伝子群の機能解析

久保 稔¹, 西窪 伸之¹, 山口 雅利¹, 福田 裕穂^{1,2}, 出村 拓¹ (¹理研・PSC, ²東大・院理・生物科学)

..... W3N Wnt シグナル研究の最前線

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 N会場(ポートピアホテル 大輪田A)
世話人/座長: 菊池 章(広大・院医歯薬), 秋山 徹(東大・分生研)

- 15:15 W3N-1 DWnt4 はショウジョウバエ視覚系において視神経投射の背腹方向の特異性を制御する
佐藤 純¹, 梅津 大輝¹, 村上 智史¹, 栗崎 健², 伊藤 啓², 多羽田 哲也¹(¹東大・分生研・形態形成, ²東大・分生研・高次構造)
- 15:32 W3N-2 Notch シグナルと独立な Wnt シグナルによる網膜前駆細胞の分化抑制機構
中川 真一(神戸理研 高次構造形成研究グループ)
- 15:56 W3N-3 Wnt5a synergizes with Tcf1 to suppress T cell lymphoma
Tadasuke Tsukiyama¹, William Dunty¹, Jamie Greear¹, Hans Clevers², Terry P. Yamaguchi¹(¹NCI-Frederick/NIH, Frederick, ²CBG, Hubrecht Laboratory)
- 16:13 W3N-4 Wnt シグナル関連分子 fzp-3 の脊椎形成過程における役割
八尾 良司¹, 夏目 康子¹, 山中 ひとみ¹, 伊藤 志帆子¹, 野田 哲生^{1,2}(¹癌研・研・細胞生物, ²東北大・医・創生応用医学センター)
- 16:30 W3N-5 腎臓発生における Wnt シグナル
西中村 隆一^{1,2}, 長船 健二^{2,3}, 佐藤 朗^{2,3}, 榎 真代²(¹熊本大・発生研, ²東大医科研・幹細胞シグナル, ³東大院・総合文化)
- 16:54 W3N-6 Wnt シグナルの阻害因子 ICAT による前方中枢神経細胞の誘導
佐藤 清敏¹, 笠井 真菜¹, 石田尾 武文¹, 多胡 賢一², 大和田 進², 長谷川 義美³, 千田 隆夫³, 高田 慎治⁴, 名田 茂之⁵, 中村 勉¹, 秋山 徹¹(¹東大・分生研・分子情報, ²群馬大・医・二外, ³藤田保健衛生大・医・一解, ⁴京大・理・分生発せ, ⁵阪大・微研・発癌)
- 17:11 W3N-7 マウス前後軸形成における Wnt/beta-catenin シグナルの役割
木村-吉田 千春, 松尾 勲(理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター)
- 17:35 W3N-8 カエル原腸形成運動における Wnt シグナルの役割
木下 典行^{1,2}, 飯岡 英和^{1,2}(¹基生研・形態形成, ²総研大・分子生物)

..... W3O 感染症と発がんのミッシング・リンク

2004年12月10日(金) 15:15 ~ 18:00 O会場(ポートピアホテル 大輪田B)
世話人/座長: 畠山 昌則(北大・遺伝子病制御研), 下遠野 邦忠(京大・ウイルス研)

- 15:15 W3O-1 ヒトパピローマウイルス感染と発がん
清野 透, 温川 恭至, 齋藤 真子, 半田 慶介, 瀬津 名美子(国がん・研・ウイルス)
- 15:42 W3O-2 EB ウイルスがコードする小RNA 分子 EBER と発がん
高田 賢蔵, 岩切 大, 楊 麗新, Nazmul Ahsan, 矢島 美彩子(北大・遺制研・癌ウイルス)
- 16:09 W3O-3 EB ウイルス RK-BARF0 タンパク質は I-mfa による Wnt シグナルの抑制を解除する
草野 秀一¹, Nancy Raab-Traub²(¹聖マリアンナ医大・微生物, ²ノースカロライナ大学・ラインバ-ガーがん研)
- 16:36 W3O-4 ATL 腫瘍細胞由来のがん関連遺伝子 Tgat による NF- B 活性化
山田 兼史, 森内 良三, 森 剛志, 河野 友子, 松山 俊文, 片峰 茂(長崎大・院・医歯薬学総合研究科・感染分子病態学)
- 17:03 W3O-5 C 型肝炎ウイルス感染による細胞増殖制御
下遠野 邦忠(京都大学 ウイルス研)
- 17:30 W3O-6 ヘリコバクター・ピロリによる細胞内シグナル伝達系の脱制御
畠山 昌則(北大・遺制研・分子腫瘍)

..... W3P 老化研究：新たなパラダイムの形成を目指して

2004年12月10日（金） 15:15～18:00 P会場（ポートピアホテル 大輪田C）

世話人／座 長：鍋島 陽一（京大・院医），石井 直明（東海大・医）

15:15 はじめに

鍋島 陽一（京大・院医），石井 直明（東海大・医）

15:20 W3P-1 カロリー制限による抗老化，寿命延長のメカニズム：GH-IGF-1 抑制ラットを用いた解析

下川 功（長崎大・院・医歯薬総合）

15:50 W3P-2 老化・寿命を制御する NAD 依存性脱アセチル化酵素 Sir2 の哺乳類における組織特異的な機能と NAD 合成系によるその活性制御

今井 眞一郎（ワシントン大学医学部，分子生物学・薬理学部門）

16:20 W3P-3 老化加速病・生活習慣病に関わる新たな分泌因子の同定と応用

下村 伊一郎（大阪大学大学院生命機能研究科病態医化学・医学系研究科分子制御）

16:50 W3P-4 加齢性記憶障害と寿命の分子メカニズムとその相関

齊藤 実^{1,2}（¹東京都神経科学総合研究所，²科学技術振興機構さきがけ研究21）

17:20 W3P-5 球状 アミロイド凝集体「アミロスフェロイド」-老化に伴うタンパク質の自己組織化と神経細胞死

星 美奈子^{1,2}（¹三菱生命研・アルツハイマー病発症機序解明チーム，²東工大・院生命理工）

17:50 終わりに

石井 直明（東海大・医），鍋島 陽一（京大・院医）

..... W3Q 構造生物学の次世代技術とその応用

2004年12月10日（金） 15:15～18:00 Q会場（神戸商工会議所会館 神商ホール）

世話人／座 長：千田 俊哉（産総研BIRC），嶋田 一夫（東大・院薬系，産総研BIRC）

15:15 はじめに

15:20 W3Q-1 PCB/ビフェニル分解代謝系を構成するタンパク質群の構造と機能

千田 俊哉¹，木村 成伸²，小川 直人³，石田 哲夫⁴，宮内 啓介⁵，政井 英司⁵，福田 雅夫⁵（¹産総研・生物情報解析研究センター，²兵庫県立大学大学院・生命科学研究科，³農業環境技術研究所，⁴滋賀医大・医学部・生化¹，⁵長岡技術科学大学・生物系）

15:42 W3Q-2 原子分解能 X 線結晶構造解析と中性子線結晶構造解析による水素原子の可視化

加藤 博章^{1,2}（¹京大院・薬，²理研・播磨研 / SPring-8）

16:04 W3Q-3 タンパク - タンパク相互作用解析ツールとしての放射光 X 線結晶構造解析

若槻 壮市（高エネ研・構造生物学研究センター）

16:26 W3Q-4 膜たんぱく質の電子線結晶解析の迅速化ー水チャネル AQP4 の構造解析

光岡 薫¹，廣明 洋子^{2,3}，谷 一寿²，亀川 亜希子¹，刑部 伸彦¹，藤吉 好則²（¹産総研・生物情報解析研究センター，²京大・理，³戦略的基礎研究推進事業）

16:48 W3Q-5 高感度質量分析法を用いた微量タンパク質複合体の高次構造解析

坂口 裕理子，青木 一史，鈴木 勉（東大院・工）

17:02 W3Q-6 NMR を用いたタンパク質複合体相互作用解析技術

高橋 栄夫（産総研・生物情報解析研究センター）

17:24 W3Q-7 In-Cell NMR 法を用いた細胞内における蛋白質間相互作用の直接観測

吉益 雅俊^{1,4}，美川 務^{2,3,4}，林 宣宏⁵，柴田 武彦^{1,2}，伊藤 隆^{2,3,4}（¹理研・柴田遺伝生化学，²理研・生体超分子構造・機能研究 G，³理研・城生体金属科学，⁴CREST/JST，⁵藤田保衛大・総医研・医高分子）

17:38 W3Q-8 トリプトファン蛍光を利用した代謝型グルタミン酸受容体のリガンド結合特性の解明

鈴木 良和，陣上 久人（生物分子工学研究所）

..... W3R 高次生命現象を支える ECM 環境と細胞のクロストーク

2004 年 12 月 10 日 (金) 15:15 ~ 18:00 R 会場 (神戸商工会議所会館 会議室 1/2/3)
世話人 / 座 長 : 西脇 清二 (理研・発生再生科総研セ), 瀬原 淳子 (京大・再生研)

15:15 はじめに

瀬原 淳子 (京大・再生研)

15:20 W3R-1 細胞の増殖・分化における ADAM プロテアーゼの役割

正木 めぐみ¹, 栗崎 知浩¹, 若月 修二¹, 小松 紘司¹, 湯本 法弘¹, 増田 亜紀², 東 利圭¹, 横関 智一¹, 黒原 一人¹, 富田 幸子³, 瀬原 (藤沢) 淳子¹ (¹京大再生研, ²CREST, ³東京女子医大)

15:35 W3R-2 線虫の細胞移動を制御する ADAM プロテアーゼ MIG-17 の役割

西脇 清二 (理研 CDB)

15:55 W3R-3 背側神経に発現する細胞表面タンパク Scube2 による長距離のヘッジホッグシグナル制御機構

川上 厚志¹, 野島 康弘^{2,3}, 豊田 敦⁴, 石田 鷹架 美賀子², 佐藤 美紀^{2,3}, 田中 英臣^{2,3}, 和田 浩則², 政井 一郎⁵, 寺崎 晴美¹, 武田 洋幸¹, 岡本 仁^{2,3} (¹東大院理生物科学, ²理研脳センター, ³戦略, ⁴理研ゲノム, ⁵理研政井ユニット)

16:10 W3R-4 血球の発生における臓器間, 臓器内細胞動態制御と骨髄内細胞性ニッチ

長澤 丘司, 常世田 好司 (京都大学再生医科学研究所)

16:30 W3R-5 臓器形成におけるフィブロネクチンの役割について

阪井 丘芳 (大阪大・歯・一口外)

16:45 W3R-6 ECM 環境のカスタマイゼーションとマトリオーム

関口 清俊^{1,2} (¹ERATO 関口細胞外環境 P, JST, ²阪大・蛋白研)

17:05 W3R-7 ES 細胞の胚性内胚葉への分化誘導過程におけるフィブロネクチン遺伝子の発現上昇とその発現を規定するエンハンサーの同定

白井 哲^{1,2}, 宮城 聡¹, 堀内 大輔¹, 西本 正純¹, 萩原 弘一², 村松 正實¹, 奥田 晶彦¹ (¹埼玉医大・ゲノム医学・発生・分化, ²埼玉医大・呼吸器内科)

17:20 W3R-8 ECM-ECM レセプター相互作用の構造生物学

高木 淳一 (阪大・蛋白研)

17:40 W3R-9 MT1-MMP/MMP-2 による造腫瘍性の制御と治療への応用

清木 元治, 谷脇 香, 野中 孝治, 梁 幾勇 (東大・医科研・腫瘍細胞)

..... W4A 細胞質分裂制御におけるタンパク質の動態と情報伝達.....

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 A会場(神戸国際展示場 2A会議室)
世話人/座長: 足立 博之(東大・院農生科), 祐村 恵彦(山口大・理), 馬淵 一誠(東大・院総文)

- 9:15 はじめに
足立 博之(東大・院農生科)
- 9:16 W4A-1 分裂面決定における微小管の役割と表層流
祐村 恵彦, 岡田 明子, 伊藤 剛(山口大・理・自然情報)
- 9:34 W4A-2 細胞質分裂に寄与する二つの独立な微小管制御機構
茂木 文夫, 杉本 亜砂子(理研・発生再生科学総合研究センター)
- 9:52 W4A-3 分裂酵母の収縮環形成におけるミオシンの集合とAdf1の働き
馬淵 一誠¹, 茂木 文夫², 中野 賢太郎³(¹東大・院総文・広域・生命, ²理研・発生再生研, ³筑波大・生物学)
- 10:10 W4A-4 細胞質分裂におけるコフィリン, LIM キナーゼ, Slingshot の役割
梶 紀子¹, 執印 美加¹, 大橋 一正¹, 丹羽 隆介^{2,3}, 上村 匡^{2,3}, 水野 健作¹(¹東北大・院・生命科学, ²京大・ウイルス研, ³CREST, JST)
- 10:28 W4A-5 Rho ファミリー G タンパク質の細胞質分裂への関与
吉崎 尚良^{1,2}, 望月 直樹², 松田 道行¹(¹阪大・微研・腫瘍ウイルス, ²国立循環器病センター・循環器形態)
- 10:46 W4A-6 セントラルスピンドル微小管による細胞質分裂の開始および進行の制御と微小管結合タンパク Orbit の役割
鈴木 隆夫¹, Savoian Matthew², Glover David², 井上 喜博¹(¹京都工繊大・ショウジョウバエ, ²ケンブリッジ大・遺伝)
- 11:04 W4A-7 細胞性粘菌の細胞質分裂における MKLP-1 様タンパク質の機能解析
佐々木 隆宏, 依田 幸司, 足立 博之(東大院 農生科 応生工)
- 11:22 W4A-8 キネシン様蛋白質により活性化される MAP キナーゼカスケードによる植物の細胞質分裂の制御機構
町田 泰則¹, 征矢野 敬¹, 笹部 美智子¹, 高橋 裕治¹, 北村 さおり¹, 園部 誠司², 五十嵐 久子²(¹名大院・理・生命, ²姫路工大・理・生命)
- 11:40 W4A-9 分裂酵母 Schizosaccharomyces pombe が隠し持つ heterokaryon を維持する分裂機構
岡崎 孝映, 丹羽 修身(かずさDNA研究所)
- 11:58 終わりに
馬淵 一誠(東大・院総文)

..... W4B ゲノムとクロマチンの分子解剖：隠された情報と暗号を探る

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 B会場(神戸国際展示場 3A会議室)
世話人/座長：堀越 正美(東大・分生研), 大山 隆(甲南大・理工)

- 9:15 W4B-1 FACT-HMG ドメインとヌクレオソームの相互作用に関する構造解析
津中 康央¹, 笠井 信幸¹, 橋 真一¹, 梶村 直子¹, 的場 京子¹, 広瀬 進², 森川 耿右¹(¹生物分子工学研究所・構造解析研究部, ²国立遺伝学研究所・形質遺伝研究部門)
- 9:25 W4B-2 複製, 組み換え及びテロメア伸長における DNA の 4 重鎖構造とそれをアンフォールドするタンパク質の意義
片平 正人(横浜国大・院環境情報)
- 9:39 W4B-3 ゲノムに潜む未知のシグナル配列類を探索するための新規なゲノム情報学
阿部 貴志^{1,2}, 菅原 秀明^{1,2}, 木ノ内 誠³, 金谷 重彦⁴, 池村 淑道²(¹遺伝研・CIB-DDBJ, ²総研大, ³山大, ⁴奈良先端大)
- 9:49 W4B-4 ベント DNA, クロマチン構造, そして転写調節
木山 亮一¹, 加藤 愛¹, 大西 芳秋¹, 木山 裕子²(¹産総研・生物機能工学, ²日本医大・生理)
- 10:03 W4B-5 クロマチン形成の分子基盤とバリエーション
田上 英明(名大・院理・生命理学)
- 10:17 W4B-6 CTCF タンパク質複合体によるクロマチンインスレーター形成機構
石原 宏, 中尾 光善(熊本大・発生研・再建医学・器官制御)
- 10:27 W4B-7 機能的クロマチン構築の分子基盤: DNA の高次構造と機械的特性に仕込まれた情報
大山 隆^{1,2}, 隅田 周志^{1,2}, 福江 善朗^{1,2}, 西川 純一^{1,2}(¹甲南大・理工・生物, ²甲南大・知的情報通信研)
- 10:44 W4B-8 ヘテロクロマチンにおけるヒストン修飾制御
中川 浩実, 八田 真美子, 加藤 太陽, 横山 美佳, 村上 洋太(京大・ウイルス研・細胞制御)
- 10:54 W4B-9 真核細胞生物の染色体機能領域及び境界領域形成機構の普遍性と多様性の解明
堀越 正美(東大・分生研・発生分化構造)
- 11:11 W4B-10 クロマチンリモデリング複合体 RSF の機能解析
花井 一馬¹, 古橋 寛史^{2,3}, 霜鳥 大信⁴, 西岡 憲一^{2,3}, 山本 卓¹, 赤坂 甲治⁴, 広瀬 進^{2,3}(¹広島大・院・理, ²遺伝研・形質遺伝, ³総研大・遺伝学, ⁴東大・院・理)
- 11:21 W4B-11 酸性分子シャペロンによるゲノム-塩基性タンパク質複合体の機能制御
永田 恭介, 奥脇 暢, 下山 多映, 村野 健作, 春木 宏仁(筑波大・院・人間総合)
- 11:38 W4B-12 細胞の運命を決める小さな RNA の発見
多比良 和誠^{1,2}(¹東大・院工・化学生命, ²産総研・ジーンファンクション)
- 11:55 終わりに

..... W4C 核内レセプター研究の最前線

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 C会場(神戸国際会議場 メインホール)
世話人/座長: 加藤 茂明(東大・分生研), 横島 誠(日大・医)

- 9:15 W4C-1 PPARによる転写制御機構: 共通の結合部位を介した2つの隣接遺伝子の組織選択的発現調節およびSUMO化による負の活性制御
大隅 隆, 清水 誠, 山下 大輔, 山口 智広, 廣瀬 富美子(兵庫県立大院・生命理学)
- 9:32 W4C-2 Ubc9によるミネラルコルチコイド受容体(MR)の転写制御機構
柴田 洋孝^{1,2}, 横田 健一², 小林 佐紀子², 須田 徳子², 村井 彩乃², 栗原 勲², 齊藤 郁夫¹, 加藤 茂明³, 猿田 享男²(¹慶應義塾大学・保健管理センター, ²慶應義塾大学・医学部・内科, ³東京大学・分子細胞生物学研究所)
- 9:49 W4C-3 Intracellular Dynamics of Estrogen Receptor and Progesterone Receptors in Living Cells
Ken-ichi Matsuda, Natsuko Kaku, Mayumi Nishi, Mitsuhiro Kawata(Kyoto Pref. Univ. Med. Dept. Anato. Neurobiol.)
- 9:57 W4C-4 PPARの核-細胞質間輸送: 核輸送シグナル及びその調節機構の解析
梅本 朋江^{1,2}, 岩本 章子¹, 本島 清人³, 藤木 幸夫^{1,2}(¹九大・院理・生物化学, ²SORST・科技园, ³明治薬大・生化学)
- 10:05 W4C-5 核内受容体PPARは「フレンチパラドックス」に関与するか?
井上 裕康¹, Xiao-Fan Jiang², 長田 志帆³, 梅園 和彦³, 名村 尚武²(¹奈良女子大・生活環境・食物, ²クリーブランドクリニック, ³京都大学・ウイルス研)
- 10:18 W4C-6 PPARの臓器特異的機能の解明に向けたトランスクリプトーム解析
山崎 大典¹, 橘 敬祐¹, 中村 仁美¹, 小林 由美¹, 片山 達也¹, 上田 智尋¹, 石本 憲司¹, 住友 美賀子¹, 榎田 悟², 田中 十志也³, 酒井 寿郎³, 児玉 龍彦³, 土井 健史^{1,2}(¹阪大院・薬, ²阪大院・医, ³東大・先端研)
- 10:26 W4C-7 脳の性差とその性分化を誘導するアンドロゲン受容体の機能
松本 高広^{1,2}, 佐藤 隆史¹, 渡辺 資之¹, 中村 貴¹, 椎名 博子¹, 宮本 純子¹, 武山 健一^{1,2}, 加藤 茂明^{1,2}(¹東大・分生研, ²科技园・SORST)
- 10:43 W4C-8 性ホルモン標的因子の同定とその機能
井上 聡^{1,2}(¹東大・院医・加齢医学, ²埼玉医大・ゲノム医学研究セ・遺伝子情報制御)
- 11:00 W4C-9 リコトール酸誘導体によるビタミンD受容体の選択的活性化
横島 誠^{1,2}, 安達 竜太郎², 本間 良夫³, 増野 弘幸⁴, 川名 克芳^{1,2}, 下村 伊一郎², 山田 幸子⁴(¹日大・医・生化, ²阪大・院医・病理病態, ³埼玉がんセ, ⁴東京医歯大・生材研)
- 11:17 W4C-10 Ad4BP/SF-1 遺伝子の組織特異的発現制御機構
諸橋 憲一郎, モハマド スパイル, 嶋 雄一, 日下 雄友, 杉山 紀之, 小川 英知, 福井 由宇子(基生研・性差生物学)
- 11:34 W4C-11 Function and Regulation of Vertebrate Nuclear Receptor NR5A
Bon-chu Chung(Institute of Molecular Biology, Academia Sinica)

..... W4D ウイルスの増殖戦略を利用したウイルス治療法 ,
遺伝子治療法 (ベクター) の開発と応用

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 D会場(神戸国際会議場 国際会議室)
世話人/座 長: 加藤 篤(感染研・ウイルス第3部), 横山 和尚(理研・バイオリソースセ)

- 9:15 はじめに
加藤 篤(感染研・ウイルス第3部)
- 9:20 W4D-1 ウイルス感染に应答した自然免疫誘導における新規シグナル分子RIG-Iの機能解析
米山 光俊¹, 菊池 美香¹, 夏川 高志¹, 忍 典昭¹, 今泉 忠淳², 宮岸 真^{3,4}, 多比良 和誠^{3,4}, 審良 静男⁵, 藤田 尚志¹(¹都臨床研・腫瘍細胞, ²弘前大・医, ³東大・院・工, ⁴産総研ジーンファンクション, ⁵阪大微研・癌抑制)
- 9:35 W4D-2 C型肝炎ウイルス(HCV)ゲノム複製単位(レプリコン)を用いたHCV RNA複製機構の解析
土方 誠, 宮成 悠介, 下遠野 邦忠(京大・ウイルス研)
- 9:55 W4D-3 センダイウイルスのゲノム増幅を応用した悪性腫瘍への免疫遺伝子治療技術開発
米満 吉和¹, 岡野 慎士¹, 柴田 智子¹, 長谷川 護², 井上 誠²(¹九州大・院医・病理病態, ²ディナベック)
- 10:15 W4D-4 BACシステム:ヘルペスウイルスの医学的利用を加速しうる新しいウイルスゲノム改変法
川口 寧^{1,2}, 田中 道子³(¹名大・院医・ウイルス学, ²JST・さががけ, ³感染研・感染病理)
- 10:35 W4D-5 Bリンパ球トランスフォーム能という特性を生かしたEBウイルスベクター
神田 輝¹, 高田 賢蔵²(¹北大・遺制研・ウイルスベクター開発セ, ²北大・遺制研・癌ウイルス)
- 10:50 W4D-6 AAV8(アデノ随伴ウイルス8型)ベクター末梢血管投与によるマウス全肝細胞, 全身骨格筋, 全心筋細胞への遺伝子導入
中井 浩之(スタンフォード大, 医, 小児)
- 11:15 W4D-7 増殖戦略を利用したウイルス治療法: アデノウイルスベクター
濱田 洋文(札医・分子医学)
- 11:35 W4D-8 インフルエンザウイルスベクターの構築と展望
堀本 泰介^{1,2}, 藤井 健^{1,2}, 渡辺 真治³, 前田 寧子^{1,2,3}, 河岡 義裕^{1,2,3}(¹東京大・医科研, ²CREST, ³ウイスコンシン大・獣医)
- 11:55 おわりに
横山 和尚(理研・バイオリソースセ)

..... W4F 寄生原虫宿主適応の分子機構

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 F会場(神戸国際会議場 501)
世話人/座長: 北 潔(東大・院医), 河津 信一郎(国立国際医療セ)

- 9:15 はじめに
河津 信一郎(国立国際医療セ)
- 9:20 W4F-1 赤血球期熱帯熱マラリア原虫のユニークなトリアシルグリセロールの代謝・輸送
三田村 俊秀^{1,2}(¹大阪大・微研・分子原虫, ²JST・さががけ)
- 9:45 W4F-2 熱帯熱マラリア原虫(*Plasmodium falciparum*)における抗酸化タンパク遺伝子転写制御機構の解析
駒木 - 安田 加奈子^{1,2}, 矢野 和彦¹, 竹前 等^{1,2}, 木村 理沙¹, 奥脇 暢³, 永田 恭介³, 狩野 繁之¹, 河津 信一郎^{1,2}(¹国立国際医療センター・研究所, ²科技団・PRESTO, ³筑波大・基礎医)
- 10:10 W4F-3 マラリア原虫のヘム合成系
佐藤 恵春(Div. Parasitol., NIMR, UK)
- 10:35 W4F-4 トリパノソーマ類のピリミジン生合成酵素の嫌氣的寄生適応
奈良 武司¹, 桑浦 健¹, 牧内 貴志¹, 橋本 哲男², 青木 孝¹(¹順天堂大・医・生体防御寄生虫学, ²筑波大・生物科学系)
- 11:00 W4F-5 バベシア原虫媒介者のマダニより分離した殺バベシア原虫ペプチド
辻 尚利¹, 藤崎 幸蔵²(¹農研機構・動物衛研・寄生虫病, ²帯広畜大・原虫研)
- 11:25 W4F-6 腸管寄生性原虫赤痢アメーバの病原機構解明のためのプロテオミクス及びポストプロテオミクスアプローチ
野崎 智義^{1,2}(¹国立感染研・寄生動物, ²さががけ・JST)
- 11:50 おわりに
北 潔(東大・院医)

..... W4G モデル生物をつかった匂いとフェロモンの感覚分子生物学

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 G会場(神戸国際会議場 502)
世話人/座長: 東原 和成(東大・院新領域), 吉原 良浩(理研・脳科学総研セ)

- 9:15 序論
- 9:20 W4G-1 進化上でのフェロモン受容体遺伝子の変遷と鋤鼻器
山岸 公子(都臨床研・医薬研究開発センター)
- 9:45 W4G-2 Combinatorial coexpression of neural and immune multigene families in mouse vomeronasal sensory neurons.
Tomohiro Ishii, Junji Hirota, Peter Mombaerts(The Rockefeller University)
- 10:15 W4G-3 匂いやフェロモンを感知する受容体の分子生物学
東原 和成(東大・院新領域・先端生命)
- 10:40 W4G-4 嗅覚受容体遺伝子の嗅上皮における領域特異的発現制御
西住 裕文¹, 坪井 昭夫¹, 宮崎 隆明¹, 名川 文清¹, 坂野 仁^{1,2}(¹東大・院理・生化, ²JST・CREST)
- 11:00 W4G-5 ショウジョウバエにおける嗅覚神経細胞の軸索投射に異常を示す突然変異の解析
遠藤 啓太¹, 依田 有香¹, 青木 智子¹, 木村 賢一², 浜 千尋¹(¹理研・CDB, ²北教大・岩見沢)
- 11:25 W4G-6 トランスジェニックゼブラフィッシュを用いた嗅覚神経系軸索投射様式の解析
吉原 良浩, 佐藤 友紀, 宮坂 信彦(理研BSI・シナプス分子機構)
- 11:50 総合討論

..... W4H オルガネラ輸送の分子モーター ミオシン V のすべて

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 H会場(神戸国際会議場 503/504/505)
世話人/座長: 五十嵐 道弘(新潟大・院医歯学総), 福田 光則(理研・脳科研セ)

- 9:15 はじめに
五十嵐 道弘(新潟大・院医歯学総)
- 9:20 W4H-1 Function and regulation of mammalian myosin V
Mitsuo Ikebe (Dept Physiol, Univ Massachusetts Med Sch)
- 9:45 W4H-2 Myosin V の歩く仕組み - 1 分子計測で分ったこと -
石渡 信一(早稲田大学・理工・物理)
- 10:10 W4H-3 出芽酵母クラス V ミオシンによるミトコンドリア分配機構
松井 泰, 伊藤 敬, 近藤 俊輔, 東江 昭夫, 渡部 晶子, 松井 理恵(東京大学・院理系・生物科学)
- 10:35 W4H-4 分裂酵母の小胞輸送制御タンパク質 Ypt2 の局在性におけるアクチン細胞骨格の役割
中野 賢太郎¹, 戸谷 美夏², 山本 正幸³, 馬淵 一誠⁴ (¹筑波大院・生命環境・構造生物, ²ICRF, UK, ³東大院・理・生化, ⁴東大院・総文・生命)
- 10:50 W4H-5 メラノソーム輸送におけるミオシン Va 受容体 Slac2-a の役割
福田 光則, 伊藤 敬, 黒田 垂歩(理研・福田独立主幹研究ユニット)
- 11:15 W4H-6 開口放出の調節におけるミオシン V の役割
五十嵐 道弘(新潟大院・医歯学・分子細胞機能学)
- 11:40 まとめ

..... W4I 構造プロテオミクスと構造バイオインフォマティクス

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 I会場(ポートピアホテル 偕楽1)
世話人/座長: 諏訪 牧子(産総研・CBRC), 野口 保(産総研・CBRC)

- 9:15 はじめに
諏訪 牧子(CBRC)
- 9:20 W4I-1 複合体立体構造データの解析と分子間相互作用の推定
川端 猛(奈良先端大・情報)
- 9:50 W4I-2 酵素触媒反応の階層分類
長野 希美^{1,2} (¹産総研・CBRC, ²科学技術振興機構・さきがけ21)
- 10:20 W4I-3 配列解析から予測する構造ドメイン領域
黒田 裕(農工大・工・生命)
- 10:50 W4I-4 アミノ酸配列からの蛋白質立体構造予測: 現状, CASP6 と今後
高田 彰二¹, 藤壇 佳見¹, 千見寺 浄慈¹, 朴 聖俊² (¹神大自然科学, ²東工大理工)
- 11:20 W4I-5 構造インフォマティクスにおける分子シミュレーション
木寺 詔紀(横浜市大・院総合理)
- 11:50 終わりに
野口 保(CBRC)

..... W4J ゲノムから疾患モデルまで
 ~メダカ・ゼブラフィッシュの genetics と genomics

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 J会場(ポートピアホテル 偕楽2)
 世話人/座長: 武田 洋幸(東大・院理), 工藤 明(東工大・院生命理工)

- 9:15 W4J-1 Genomics and genetics in medaka: overview of the present status
 Hiroyuki Takeda, Kiyoshi Naruse (Univ. Tokyo, Graduate School of Science)
- 9:33 W4J-2 The Genomic DNA Sequence of Medaka Chromosome LG22
 N Shimizu¹, T Sasaki¹, S Asakawa¹, A Shimizu¹, SK Ishikawa¹, S Imai^{1,2}, Y Murayama¹, H Himmelbauer³, H Mitani⁴, M Furutani-Seiki⁵, H Kondoh⁵, I Nanda⁶, M Schmid⁶, M Scharf⁶, M Nonaka⁷, H Takeda⁷, H Hori², A Shima⁴ (¹Keio Univ., Sch. Med., Dept. Mol. Biol., ²Nagoya Univ., Grad. Sch. of Sci., Div. Biol. Sci., ³Max-Planck-Ins., Mol. Genet., ⁴Tokyo Univ., Grad. Sch. Frontier Sci., Dept. Integrated Biosci., ⁵Kondoh Research Group, SORST, JST, ⁶Univ. Wurzburg, Dept. Physiol. Chem. I, ⁷Tokyo Univ., Grad. Sch. Sci., Dept. Biol. Sci.)
- 9:51 W4J-3 The study of hematopoietic stem cells in zebrafish
 David Traver¹, Alissa Winzeler², Howard M Stern², Elizabeth Mayhall², David M Langenau³, A. Thomas Look³, Leonard I Zon² (¹Department of Biology, University of California, San Diego., ²Department of Medicine, Children's Hospital Boston, ³Dana Farber Cancer Institute, Boston, MA 02115)
- 10:14 W4J-4 Analysis of genomic organization, developmental expression and cis-regulatory regions of globin genes in medaka *Oryzias latipes*.
 Kouichi Maruyama¹, Shigeki Yasumasu², Ichiro Iuchi², Yuji Ishikawa¹ (¹Nat. Inst. Rad. Sci., Res. Cent. Rad. Safety, ²Sophia Univ., Life Sci. Inst.)
- 10:32 W4J-5 Using zebrafish and medaka system to understand human cystic genes and novel ciliogenic genes.
 Tomoko Obara (MGH Harvard Medical School)
- 10:55 W4J-6 Heart and Fin Regeneration in Zebrafish
 Ashley Henry, Yoonsung Lee, Richard Roberts, Alexandra Lepilina, Kenneth D Poss (Duke University Medical Center)
- 11:18 W4J-7 Understanding molecular pathways that regulate the thymus organogenesis
 Yousuke Takahama¹, Norimasa Iwanami¹, Jie Li¹, Sadique Talukder¹, Tomokazu Higuchi¹, Hiroshi Mitani², Takashi Sasaki³, Nobuyoshi Shimizu³, Hisato Kondoh⁴, Makoto Furutani-Seiki⁴ (¹Division of Experimental Immunology, Institute for Genome Research, University of Tokushima, ²Department of Integrated Biosciences, Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo, ³Department of Molecular Biology, Keio University School of Medicine, ⁴SORST Project, Japan Science and Technology Agency)
- 11:36 W4J-8 Medaka mutants defective in organogenesis
 Akira Kudo (Tokyo Inst. Tech., Dept. Biol. Inform.)

..... W4K モデル微生物 v.s. 環境微生物 :
研究の融合と新展開-微生物多様性理解と新しいバイオテクノロジーの創成へ向けて

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 K会場(ポートピアホテル 偕楽3)

世話人/座長: 仲宗根 薫(近大・工), 吉田 健一(神戸大・農)

- 9:15 W4K-1 **大腸菌; モデル微生物としてのポストゲノム研究**
 馬場 知哉¹, 山本 奈津子², 青野 英司², 長谷川 美紀¹, 高井 幸¹, 富田 勝¹, 森 浩禎^{1,2} (¹慶大・先端生命研, ²奈良先端大・遺伝子教育)
- 9:35 W4K-2 **ECF シグマによる枯草菌の環境応答ネットワーク機構の解析**
 朝井 計, 定家 義人(埼玉大・理・分子生物)
- 9:55 W4K-3 **超好熱菌遺伝子破壊系を利用した遺伝子の *in vivo* 機能解析**
 跡見 晴幸, 福居 俊昭, 今中 忠行(京大院工, 合成・生化)
- 10:15 W4K-4 **低温菌の低温適応機構の解析と応用**
 栗原 達夫¹, 北川 正成², 浅田 起代蔵², 加藤 郁之進², 江崎 信芳¹ (¹京大・化研, ²タカラバイオ(株))
- 10:35 W4K-5 **クラミジアのゲノム解析と利用**
 東 慶直¹, 平川 英樹², 山下 敦士³, 服部 正平³, 久原 哲², 白井 睦訓¹ (¹山口大・医・感染症, ²九州大院・農, ³北里大・北里生命科学研究)
- 10:55 W4K-6 **Transcriptome analysis of *Sinorhizobium meliloti* during infection of alfalfa.**
 Claude Bruand, Delphine Capela, Cédric Filipe, Ernő Kiss, Jacques Batut (LIPM - INRA/CNRS - BP27 - 31326 Castanet Tolosan cedex)
- 11:20 W4K-7 **酸化ストレスにおける酵母の新規アセチルトランスフェラーゼ Mpr1 の生理的役割: プロリン代謝中間体によって生じる活性酸素種の制御**
 野村 倫世, 中森 茂, 高木 博史(福井県大・生物資源)
- 11:40 W4K-8 **極限のモデル真核微生物: *Cyanidioschyzon merolae***
 田中 寛¹, 黒岩 常祥² (¹東大・分生研, ²立教大・理学部)

..... W4L 細胞周期チェックポイント

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 L会場(ポートピアホテル 和楽)

世話人/座長: 小松 賢志(京大・放生研), 佐方 功幸(九大・院理)

- 9:15 W4L-1 Mechanisms for Sensing DNA Damage and Replication Stress
Lee Zou^{1,2,3}, Alex Osborn³, Shiaw-Yih Lin³, Stephen J Elledge^{2,3} (¹MGH Cancer Center, Harvard Medical School, ²Center for Genetics and Genomics, Harvard Medical School, ³Department of Biochemistry, Baylor College of Medicine)
- 9:35 W4L-2 Chk1 は Cdc25 と Cdk-サイクリン複合体との結合を阻害する: Chk1 による Cdc25 の普遍的抑制機構
宇都 克裕^{1,2}, 井上 大悟¹, 志牟田 健³, 中條 信成^{1,2}, 佐方 功幸^{1,2} (¹九州大・院理・生物科学, ²科技構・CREST, ³国立感染研・細菌第一)
- 9:55 W4L-3 アフリカツメガエル Cut5 機能ドメインの解析
橋本 吉民^{1,2}, 辻村 剛志², 杉野 明雄¹, 滝澤 温彦² (¹阪大院・生命機能, ²阪大・院理・生物科学)
- 10:15 W4L-4 DNA複製ヘリケース MCM による複製チェックポイントの活性化機構
中川 拓郎, 二谷 直樹, 中川 智絵, 升方 久夫 (阪大・院・理)
- 10:35 W4L-5 NBS1 による DNA 二重鎖切断の修復とチェックポイント制御
Antoccia Antonio¹, 坂本 修一¹, 松浦 伸也², 小林 純也³, 田内 広⁴, 小松 賢志¹ (¹京大・放生研, ²広大・原医研, ³広大・医歯薬総合, ⁴茨城大・理)
- 10:55 W4L-6 Premature mitosis による分裂破局には Chk2-p53 が必要である。
丹伊田 浩行¹, 柘植 真治¹, 勝野 裕子¹, 小西 昭充², 中西 真¹ (¹名古屋市大院・医・代謝細胞生化学, ²名古屋市大院・医・腫瘍・免疫外科)
- 11:15 W4L-7 PIK1 は PBD を介してヒト Wee1A に結合し, リン酸化により M 期開始時の Wee1A 分解を誘導する
新井 晴美^{1,2}, 岩カ潤一^{1,3}, 渡辺 信元¹, 長田 裕之^{1,2,3} (¹理研・中央研・抗生物質, ²埼玉大・理工・分子生物, ³東洋大・工・応用化学)
- 11:35 W4L-8 p27 ノックダウンによる心筋細胞増殖能の解析
安達(玉盛) 三美^{1,2}, 山田 一彦^{1,2}, 中山 敬一³, 北嶋 繁孝^{1,2} (¹東医歯大・難研・遺伝生化学, ²東医歯大・(院)疾患生命科学・ゲノム構造制御, ³九大・生医研・分子発現制御)

..... W4N シス配列からみた脊椎動物の多様化.....

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 N会場(ポートピアホテル 大輪田A)
世話人/座長: 相沢 慎一(理研CDB), 城石 俊彦(国立遺伝研・系統生物研セ)

- 9:15 Opening Remark
- 9:20 W4N-1 Otx2 cis-regulatory sequences and their changes with vertebrate evolution
Daisuke Kurokawa, Shin Aizawa (Center for Developmental Biology, RIKEN Kobe)
- 9:50 W4N-2 Systematic identification and assessment of regulatory sequences based on genome comparison: the Sox2 locus as an example
Hisato Kondoh, Tatsuya Takemoto, Yusuke Kamachi, Masanori Uchikawa (Osaka University, Graduate School of Frontier Biosciences)
- 10:20 W4N-3 Evolution of vertebrate genomes and their regulatory sequences
Chris Amemiya (Benaroya Research Institute at Virginia Mason)
- 10:50 W4N-4 A long-range cis-regulatory element for limb-specific expression of the Sonic hedgehog (*Shh*) gene
Toshihiko Shiroishi^{1,2} (¹Natl. Inst. Genet., Mammal. Genet. Lab., ²RIKEN Genomic Sciences Center)
- 11:20 W4N-5 A Gene Regulatory Network for Development: Logic Circuits in the Genome, and their Evolution
Eric Davidson (California Institute of Technology)
- 11:50 Closing Remark

..... W4O ヒトゲノムには未知なる巨大な情報が潜むのか?
~ “少ない” 遺伝子で複雑な機能を実現する謎に迫る

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 O会場(ポートピアホテル 大輪田B)
世話人/座長: 蓑島 伸生(浜松医大・光子学医研セ), 工藤 純(慶應大・医)

- 9:15 W4O-1 ヒトゲノム "完成" 配列の詳細かつ徹底的な解析によりヒト遺伝子の多様性を探る。
清水 厚志, 浅川 修一, 佐々木 貴史, 山崎 悟, 石川 サビヌ和子, 工藤 純, 清水 信義(慶應大・医・分子生物)
- 9:40 W4O-2 比較ゲノム学解析に基づくヒトゲノムの特徴抽出
渡邊 日出海¹, 藤山 秋佐夫^{2,3}, 服部 正平^{3,4}, Taylor Todd³, 豊田 敦³, 黒木 陽子³, 野口 英樹³, 太田 聡史⁵, 北野 誉⁶, 小原 雄治⁶, 斎藤 成也⁶, 榊 佳之^{3,7} (¹北大・情報・生命人間情報科学, ²情報研, ³理研・GSC, ⁴北里大・北里生命研, ⁵理研・バイオリソース, ⁶遺伝研, ⁷東工大・バイオ研)
- 10:05 W4O-3 ヒトゲノム遺伝子砂漠の進化的由来
伊藤 武彦^{1,2}, 豊田 敦², 小島 俊夫², 榊 佳之², 服部 正平^{2,3} (¹三菱総研, ²理研 ゲノム, ³北里大 生命研)
- 10:20 W4O-4 ヒト・マウス遺伝子プロモーター領域の大規模配列比較
鈴木 穰¹, 山下 理宇², 榊原 雄太³, 千葉 文³, 中井 謙太², 菅野 純夫¹ (¹東大・新領域, ²東大・医科研, ³東京理科大: 基礎工)
- 10:35 W4O-5 転写開始点データベースDBTSSとプロモーター領域配列による遺伝子発現の網羅的研究
山下 理宇^{1,3}, 鈴木 穰², 菅野 純夫², 中井 謙太¹ (¹東大医科研, ヒトゲノム解析センター, ²東大新領域, メディカルゲノム, ゲノム制御医科学, ³東大情報理工, UPBSB)
- 10:50 W4O-6 ヒト遺伝子の転写開始点とスプライシングによる転写産物の多様性について
磯貝 隆夫¹, 若松 愛¹, 木村 宏一², 西川 哲夫^{1,2}, 菅野 純夫³ (¹リバース・プロテオミクス研, ²日立・中研, ³東大院・新領域)

11:15 W4O-7 質量分析計を用いたヒト完全長 cDNA 配列からの新規低分子タンパク質コード領域の発見
尾山 大明¹, 秦 裕子², 板垣 千春², 大海 忍², 磯辺 俊明², 菅野 純夫¹ (¹東大・院新領域, ²東大・医科研)

11:30 W4O-8 CNR/プロトカドヘリン遺伝子の多様性
八木 健^{1,2,3} (¹阪大院・生命機能, ²生理研・高次神経, ³クレスト)

..... W4P 核酸塩基の修飾と生命進化における功罪

2004 年 12 月 11 日 (土) 9:15 ~ 12:00 P 会場 (ポートピアホテル 大輪田 C)
世話人 / 座 長 : 石橋 徹 (生物分子工学研・機能制御), 鈴木 勉 (東大・院新領域)

9:15 はじめに

石橋 徹 (生物分子工学研・機能制御)

9:20 W4P-1 ヌクレオチドの品質管理機構

石橋 徹¹, 早川 浩², 伊東 理世子³, 藤本 実佐子¹, 三木 健良³, 関口 睦夫³ (¹生物分子工学研究所, ²九大・医・医化学, ³福岡歯科大学)

9:55 W4P-2 リボヌクレオーム解析を用いた RNA 修飾遺伝子の網羅的探索

池内 与志穂¹, 野間 章子¹, 相馬 亜希子², 加藤 潤一³, 西村 昭子⁴, 三木 健良⁵, 小林 和夫⁶, 小笠原 直毅⁶, 関根 靖彦², 鈴木 勉¹ (¹東大院・工, ²立教大・理, ³都立大・理, ⁴遺伝研, ⁵福岡歯科大, ⁶奈良先端大・バイオ)

10:20 W4P-3 RNA メチル化酵素の構造と機能の変遷

堀 弘幸^{1,2}, 渡辺 和則¹, 深井 周也³, 武田 裕嗣¹, 岡本 裕智¹, 岡留 幹¹, 高野 扶弓¹, 池内 与志穂⁴, 高野 義孝⁵, 高柳 直幸⁵, 石井 亮平⁶, 原田 洋子⁷, 平尾 一郎^{7,8}, 横山 茂之^{6,7,9}, 鈴木 勉⁴, 瀧木 理^{3,7,10}, 遠藤 弥重太^{1,2,11} (¹愛媛大・工, ²愛媛大・ベンチャーラボ, ³東工大・院生命理工, ⁴東大・新領域, ⁵京大・院農, ⁶東大・院理, ⁷理研・ゲノムサイエンスセンター, ⁸東大・先端研, ⁹理研・播磨, ¹⁰科学技術振興機構・さきがけ, ¹¹愛媛大・無細胞センター)

10:50 W4P-4 大腸菌 tRNA ウォブル位に存在する修飾ウリジンの側鎖構造炭素源の決定と生合成機構の解析

鈴木 健夫, 鈴木 勉 (東大・工・化生)

11:10 W4P-5 酸化損傷 RNA に対する品質管理機構

早川 浩 (九大・院医・医化学)

11:40 W4P-6 8-オキシグアニンはゲノム進化の原動力か？

大野 みずき, 三浦 智史, 作見 邦彦, 古市 正人, 中別府 雄作 (九大・生医研・脳機能)

..... W4Q Notch シグナル 発生分化制御から臨床応用を目指して

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00

Q会場(神戸商工会議所会館 神商ホール)

世話人/座長: 松野 健治(東京理大・基礎工), 北川 元生(千葉大・院医), 相賀 裕美子(遺伝研・系統生物研セ)

- 9:15 W4Q-1 Multi-step regulation of Notch signaling by catalytic activity-dependent and -independent functions of an O-fucosyltransferase, Neurotic in Drosophila
Takeshi Sasamura^{1,2}, Hiroyuki Ishikawa^{2,3}, Syunsuke Higashi², Maiko Kanai^{1,2}, Shiho Nakao², Nobuo Sasaki², Tomonori Ayukawa², Toshiro Aigaki⁴, Kenji Matsuno^{1,2,3} (¹PREST, JST, ²Tokyo Univ. Science, Dept. Biol. Sci./Tec., ³Tokyo Univ. Science, GDRC, ⁴Tokyo Metropolitan Univ. Dept. Biol. Sci.)
- 9:30 W4Q-2 Nedd4 regulates endocytosis of Notch and suppresses its ligand-independent activation
Tadashi Sakata¹, Hiromi Sakaguchi¹, Leo Tusda¹, Atsushi Higasitani², Toshiro Aigaki³, Kenji Matsuno⁴, Shigeo Hayashi^{1,5} (¹Riken CDB, ²Grad. Sch. Life Sci. Tohoku Univ., ³Dpt. Biol. Tokyo Metro. Univ., ⁴Dpt. Biol. Sci. and Tech., Tokyo Univ. Sci., ⁵Dpt. Sci. and Tech. Kobe Univ)
- 9:45 W4Q-3 The Intracellular Domain of Delta1 is Required for Trans-Endocytosis of and Signaling from Notch
Tomoyuki Yamaguchi, Shigeru Chiba (Department of Cell Therapy and Transplantation Medicine, University of Tokyo Hospital)
- 10:00 W4Q-4 Delta3 inhibits but does not activate Notch signaling
Gerry Weinmaster (David Geffen School of Medicine at UCLA)
- 10:35 W4Q-5 Identification of human Mastermind family that consists of positive regulators for Notch signaling
Motoo Kitagawa (Chiba Univ., Grad. Sch. Med, Dept. Mol. Tumor Pathol.)
- 10:50 W4Q-6 Notch signal in bone marrow derived stem cells
Ken-ichi Katsube¹, Nobuyuki Kawashima², Akira Yamaguchi¹, Kei Sakamoto¹, Akihiro Umezawa³ (¹Tokyo Med. Dent. Univ., Mol. Pathol., ²Tokyo Med. Dent. Univ., Pulp. Biol., ³Natl. Inst. Child. Health Dev., Rep Sci. Pathol.)
- 11:05 W4Q-7 **中枢神経系における Notch シグナルの役割 ~ Notch シグナルの可視化の試み ~**
神山 淳¹, 徳永 暁憲^{1,2}, 岡野 栄之^{1,2} (¹慶應・医・生理, ²科技団・戦略的創造研究)
- 11:20 W4Q-8 Regulation of cortical laminar fates by Notch-RBP-J signaling
Kenji Tanigaki¹, Norio Yamamoto², Masayuki Tsuji², Tasuku Honjo² (¹Res. Inst., Shiga Med. Cent., ²Dep. of Med. Chem, Kyoto Univ.)
- 11:35 W4Q-9 A mechanism of somite segmentation: Mesp2 establishes a segmental boundary by stabilizing NICD oscillation
Yumiko Saga, Mitsuru Morimoto (National Institute of Genetics)
- 11:50 **総合討論**

..... W4R 昆虫特異機能の分子基盤

2004年12月11日(土) 9:15 ~ 12:00 R会場(神戸商工会議所会館 会議室 1/2/3)
世話人/座長: 柳沼 利信(名大・院生命農), 藤原 晴彦(東大・院新領域)

- 9:15 W4R-1 **アゲハ幼虫の擬態紋様形成を制御する分子機構**
二橋 亮, 藤原 晴彦(東京大・院新領域・先端生命)
- 9:35 W4R-2 **アゲハチョウ産卵刺激物質受容体(GPCR)候補遺伝子の構造と機能**
尾崎 克久, 中山 忠宣, 吉川 寛(JT 生命誌研究館)
- 9:55 W4R-3 **昆虫前胸腺におけるエクジソン生合成の分子的理解に向けて**
丹羽 隆介, 片岡 宏誌(東大院・新領域・先端生命)
- 10:15 W4R-4 **ショウジョウバエ性行動の遺伝解析**
山元 大輔(早稲田大・理工)
- 10:35 W4R-5 **昆虫の脱皮・変態の時間的制御機構**
上田 均^{1,3}, 阿川 泰夫², 高井 将圭³, 首藤 一平³, 広瀬 進²(¹岡山大院・自然科学, ²国立遺伝研・形質遺伝, ³岡山大・理・生物)
- 10:55 W4R-6 **カイコ胚休眠の分子機構**
柳沼 利信¹, 塩見 邦博², 新美 輝幸¹, 山下 興亜¹(¹名大・院生命農, ²信州大・繊維)
- 11:15 W4R-7 **社会性昆虫におけるカースト多型機構とその進化**
三浦 徹(北大・地球環境)
- 11:35 W4R-8 **ゲノム情報からみたカイコの性決定機構**
嶋田 透¹, 鈴木 雅京², 船隈 俊介¹, 高橋 道佳¹, 大林 富美^{1,5}, 小池 淑子^{1,6}, 藤田 英美¹, 田村 俊樹³, 阿部 広明⁴, 三田 和英³(¹東大・院農生科, ²理研, ³農業生物資源研, ⁴農工大・農, ⁵現・埼玉医大, ⁶現・国際医療センター)
- 11:55 **総合討論**